

2026年11月期 第2四半期決算説明資料



2026年7月15日

ニッケ（日本毛織株式会社）

東証プライム市場 3201

2026年11月期第2四半期 ハイライト



前年同期比で増収、営業利益以下の各利益は増益

売上高 597.1億円 (前年同期比 1.9%増 ↑)

営業利益 55.9億円 (前年同期比 13.6%増 ↑)

経常利益 61.5億円 (前年同期比 12.8%増 ↑)

親会社株主に帰属する

中間純利益 45.1億円 (前年同期比 27.4%増 ↑)

- | | |
|---------------------------------|------|
| 1. 2026年11月期第2四半期 実績 | P 4～ |
| 2. 2026年11月期 業績予想 | P17～ |
| 3. 資本コストや株価を意識した経営の実現
に向けた対応 | P23～ |
| 4. 参考資料 (ニッケグループについて) | P42～ |

1. 2026年11月期第2四半期実績



連結業績概要



2026.7.15公表

(単位：百万円)	第2四半期実績		前年同期比増減		業績予想進捗率
	2025/11月期	2026/11月期	金額	比率	比率
売上高	58,612	59,710	1,098	1.9%	45.9%
営業利益	4,920	5,590	670	13.6%	43.0%
営業利益率	8.4%	9.4%	1.0pt	-	-
経常利益	5,461	6,158	697	12.8%	46.0%
特別損益	-148	603	752	-	-
親会社株主に帰属する 中間純利益	3,543	4,512	969	27.4%	47.5%

- ✓ 売上高は、産業機材事業においてカコテクノスを期初から連結したこと等が寄与し、増収。
- ✓ 営業利益は、衣料繊維事業において前期から続くスクールユニフォームの流通在庫過多の影響を受けたものの、カコテクノスの連結効果や、人とみらい開発事業における八重洲通フィルテラスの収益貢献が本格化したこと等により、増益。

セグメント別業績



		第2四半期実績		前年同期比増減	
(単位：百万円)		2025/11月期	2026/11月期	金額	比率
衣料繊維事業	売上高	13,785	13,682	-103	-0.7%
	営業利益	443	280	-163	-36.8%
	営業利益率	3.2%	2.0%	-1.2pt	-
産業機材事業	売上高	17,587	19,623	2,036	11.6%
	営業利益	1,206	1,458	252	20.9%
	営業利益率	6.9%	7.4%	0.6pt	-
人とみらい 開発事業	売上高	13,096	12,882	-214	-1.6%
	営業利益	3,357	3,878	521	15.5%
	営業利益率	25.6%	30.1%	4.5pt	-
生活流通事業	売上高	12,147	11,198	-949	-7.8%
	営業利益	583	560	-23	-3.8%
	営業利益率	4.8%	5.0%	0.2pt	-
その他調整	売上高	1,995	2,323	328	16.4%
	営業利益	-669	-588	81	-
合計	売上高	58,612	59,710	1,098	1.9%
	営業利益	4,920	5,590	670	13.6%
	営業利益率	8.4%	9.4%	1.0pt	-



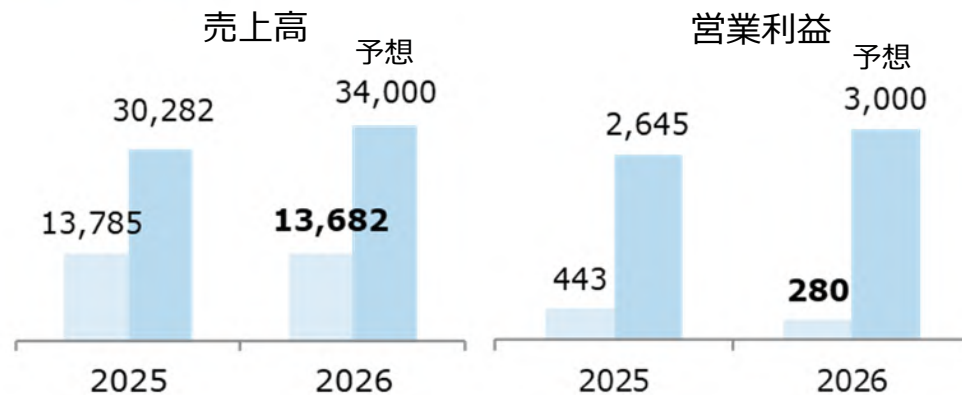
衣料繊維事業

ニッケグループ

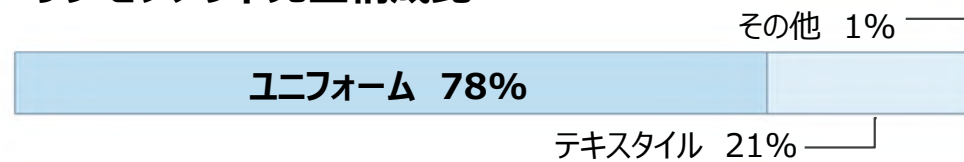
売上高 13,682百万円 前期比 ▲0.7%
営業利益 280百万円 前期比 ▲36.8%

■ 中間 ■ 通期

単位：百万円



サブセグメント売上構成比



ユニフォーム：学校制服用素材/一般企業制服用素材/官公庁制服用素材

テキスタイル：一般衣料用素材/ニット製品/売糸・編地



<業績概要>

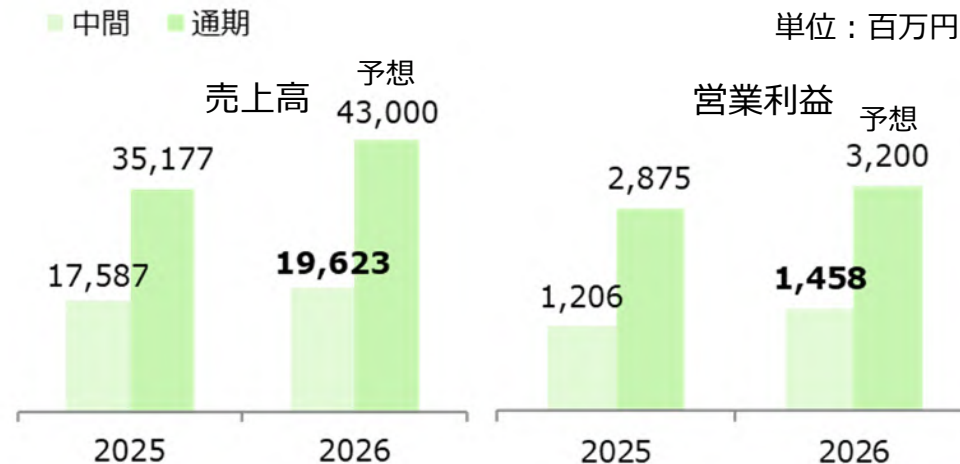
- ✓ 学校制服用素材は、前期から続く流通在庫過多の影響により、減収。
- ✓ 一般企業制服用素材は、大口案件があり増収。
- ✓ 官公庁制服用素材は、警察向けが堅調、官庁向けが好調で、増収。
- ✓ 一般衣料用素材は、国内は減収も、欧米向けは販売が伸長し増収。
- ✓ 売糸・編地は減収、製品販売は増収。



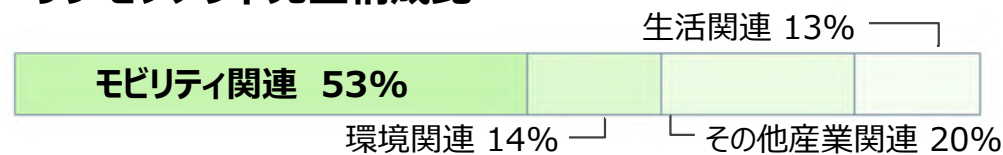
産業機材事業

ニッケグループ

売上高 19,623百万円 前期比+11.6%
営業利益 1,458百万円 前期比+20.9%



サブセグメント売上構成比



モビリティ関連：FA（車載電装品等）/車両向け資材/鉄道用制御装置

環境関連：フィルター関連資材

その他産業関連：OA・家電向け資材/半導体関連製品

生活関連：ラケットスポーツ関連（ガット）/釣り糸/楽器用資材/衛生材料



<業績概要>

- ✓ モビリティ関連は、FAは前年同期並み。車両向け不織布等は、増収。エアバッグ用縫製糸等は、顧客からの引き合いが増加し増収。また、当期より連結の範囲に含めたカコテクノスがモビリティ関連の業績に貢献。
- ✓ 環境関連は、フィルター販売が低調で減収。
- ✓ OA向け資材・その他工業用資材は減収も、半導体関連装置や画像検査装置は、増収。
- ✓ ラケットスポーツ関連は、堅調。

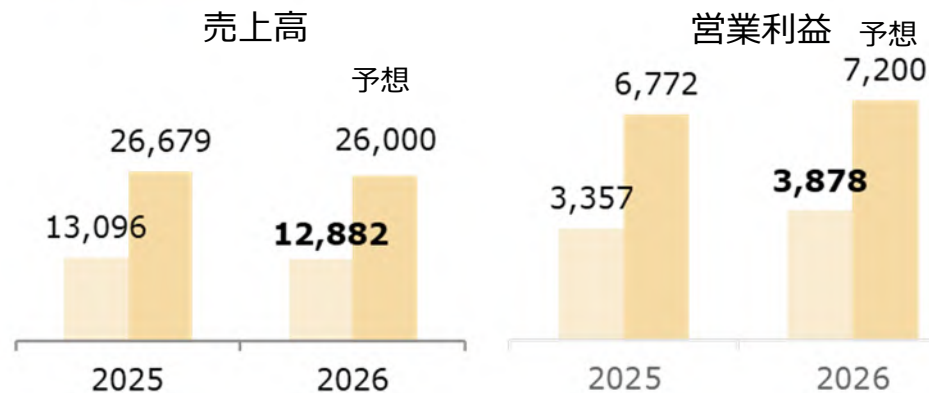
人とみらい開発事業

ニッケグループ

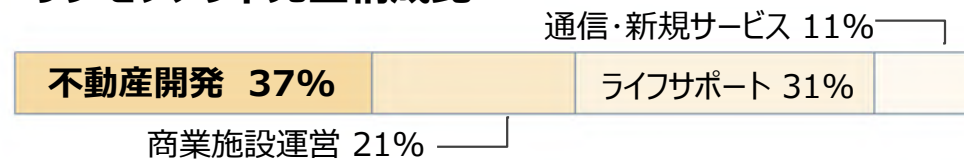
売上高 **12,882**百万円 前期比 ▲1.6%
営業利益 **3,878**百万円 前期比 +15.5%

■ 中間 ■ 通期

単位：百万円



サブセグメント売上構成比



不動産開発：不動産賃貸/ソーラー売電事業/ 建設事業

商業施設運営：商業施設運営

ライフサポート：保育/介護/ スポーツ関連

通信・新規サービス：通信関連（携帯電話）



＜業績概要＞

- ✓ 不動産賃貸は、八重洲通フィルテラスの収益が貢献し増収。
- ✓ 建設事業は、建築資材及び人件費の高騰が継続しているものの、計画通りに工事が完工し堅調。
- ✓ 商業施設運営は、一部テナントとの契約形態変更に伴い減収。
- ✓ 保育関連は、一部施設の閉鎖等に伴い減収。介護関連は、前年同期並み。
- ✓ 通信・新規サービス分野は、収益性と事業リスクを考慮し2026年4月に事業を撤退。



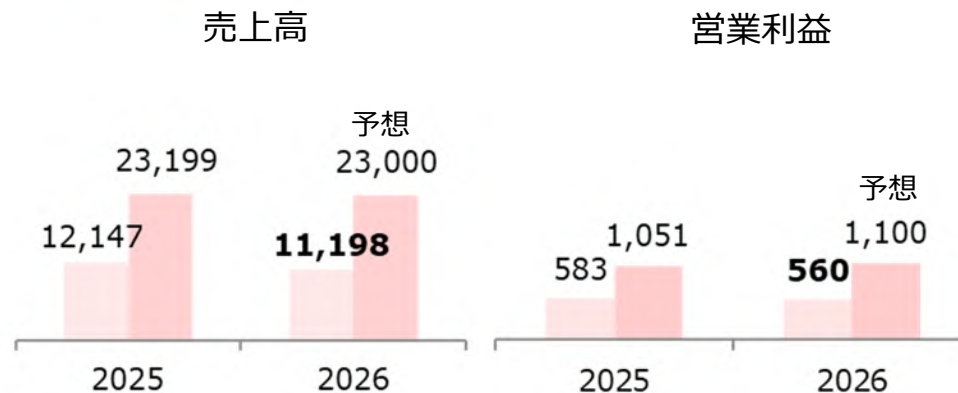
生活流通事業

ニッケグループ

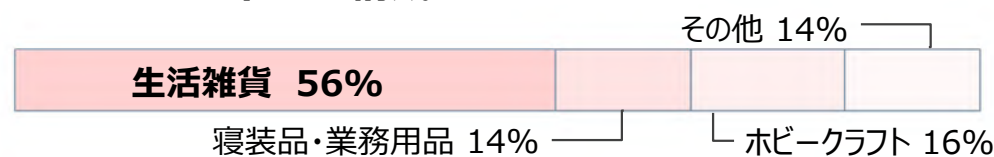
売上高 11,198百万円 前期比 ▲7.8%
営業利益 560百万円 前期比 ▲3.8%

■ 中間 ■ 通期

単位：百万円



サブセグメント売上構成比



生活雑貨：生活家電・雑貨/100円ショップ向け雑貨/家具/フィルム

寝装品・業務用品：寝装品/航空機内膝掛毛布/災害備蓄用毛布

ホビー・クラフト：スタンプ用インク・スタンプ/乗馬用品/手編毛糸

その他：コンテナ販売/保険代理店



<業績概要>

- ✓ 生活家電は、季節商戦が奏功し前年同期を上回る。
- ✓ フィルム関連は、学校用タブレット向けやゲーム機向けの販売が好調で増収。
- ✓ 寝装品は、不採算商品の整理・縮小を進めたことで減収。
- ✓ スタンプは、主力商品が苦戦し減収。スタンプ用インクは、国内向けが低調で減収。
- ✓ 乗馬用品は、価格改定の効果もあり増収。
- ✓ コンテナ販売は、受注が減少し減収。

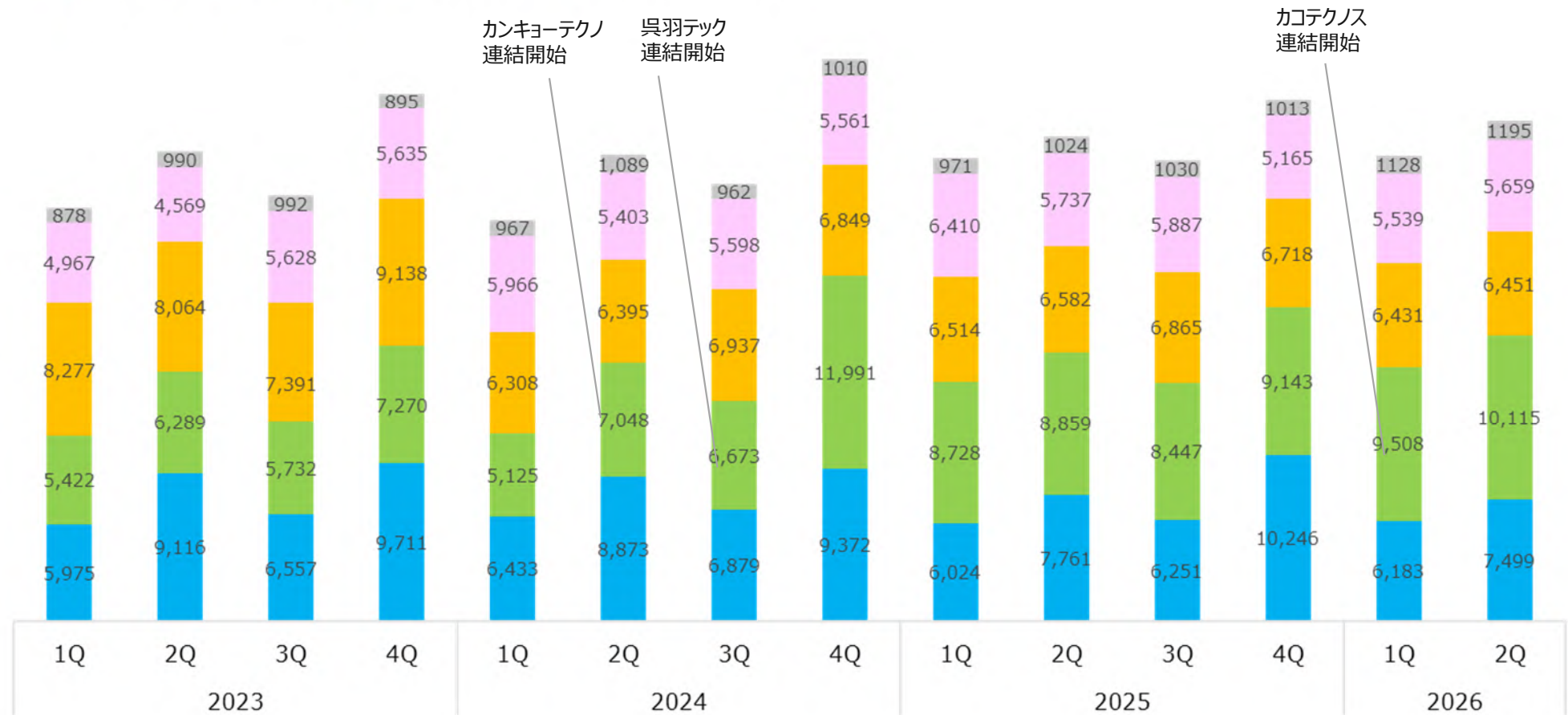
セグメント別 売上高 四半期推移



連結売上高 四半期推移

単位：百万円

■ 衣料繊維 ■ 産業機材 ■ 人とみらい開発 ■ 生活流通 ■ 本社

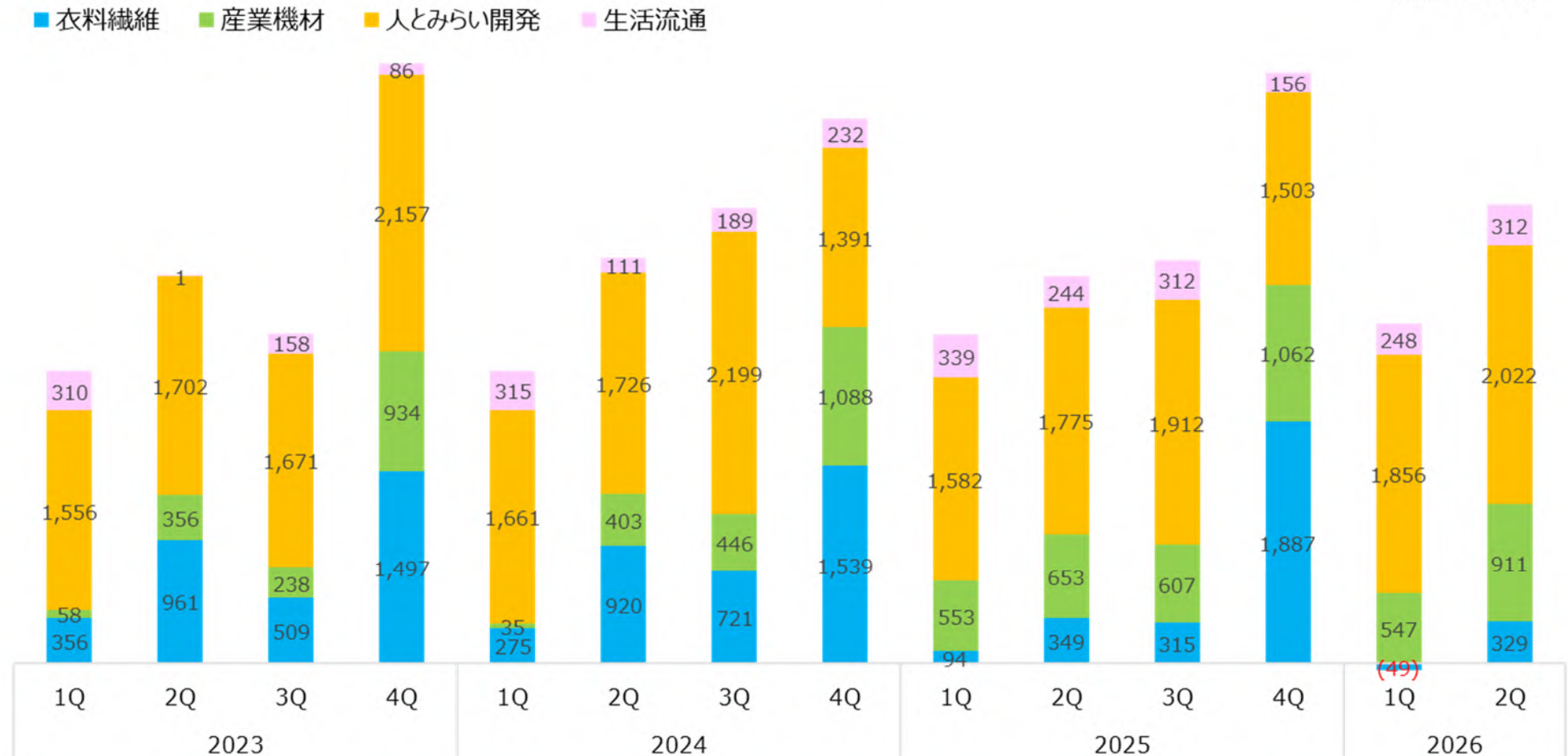


セグメント別 営業利益 四半期推移



連結営業利益 四半期推移

単位：百万円



※その他・調整額は除く

連結貸借対照表／CF サマリー



(単位：百万円)

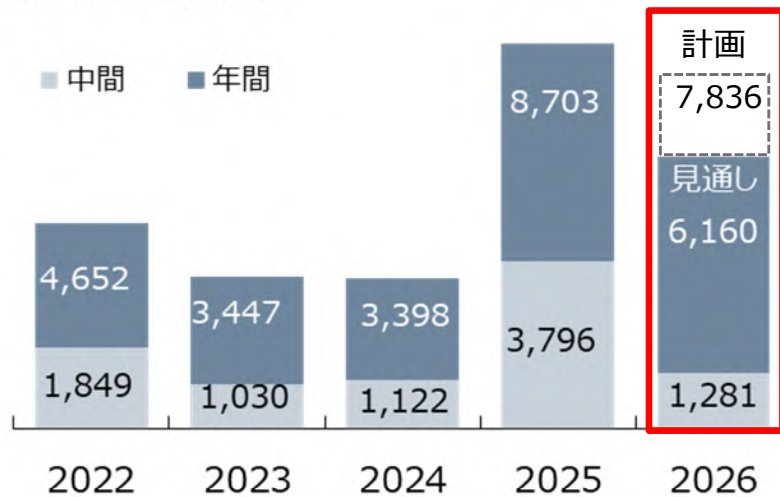
連結貸借対照表	2025/11	2026/5	増減
流動資産	92,689	91,517	-1,172
固定資産	97,067	103,809	6,742
資産合計	189,756	195,326	5,570
流動負債	35,433	34,472	-961
固定負債	22,170	25,183	3,013
負債合計	57,603	59,655	2,051
株主資本	113,712	112,464	-1,248
その他包括利益累計額	17,942	22,933	4,991
非支配株主持分	498	274	-224
純資産合計	132,152	135,671	3,518
連結C/F	2025/2Q累計	2026/2Q累計	増減
営業キャッシュフロー	6,848	9,690	2,842
投資キャッシュフロー	-3,619	-2,741	877
財務キャッシュフロー	429	-5,529	-5,959
現金及び現金同等物の期末残高	37,015	34,116	-2,898

設備投資／減価償却費推移



設備投資推移

(単位：百万円)

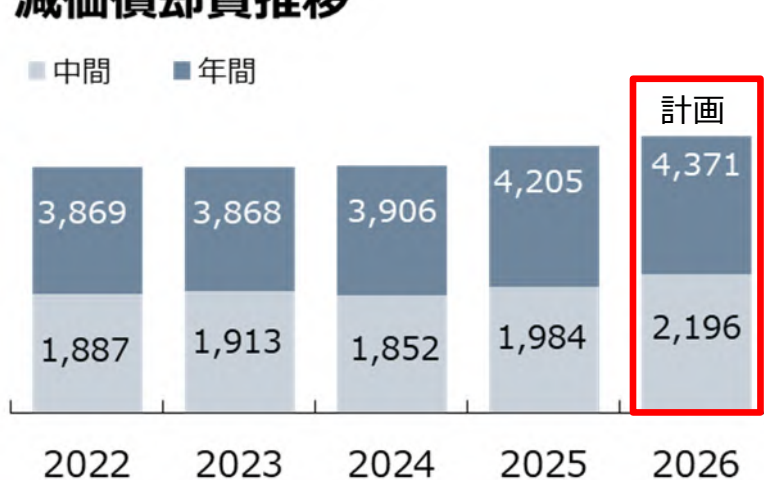


2026年度：設備投資見通し

主な設備投資	計画	見通し
不動産再開発関連	約 13.2億円	約 13.2億円
衣料繊維反毛・紡績設備 (NEDO関連)	約 8.3億円	約 5.9億円
衣料繊維基幹システム	約 5.7億円	約 6.8億円
不織布・フェルト関連設備	約 18.1億円	約 12.8億円

減価償却費推移

(単位：百万円)



- 2026年度の設備投資は約78億円を計画。第2四半期までの実績は約13億円、通期では約62億円程度となる見通し。
- 設備投資は投資効率に見合うかを慎重に精査した上で実施。不動産再開発等の大型案件に関しては概ね計画通りに進捗中。

トピックス

01 岐阜工場にトップメイキング工程を新設

ニッケグループ

国内一貫生産体制の構築により、海外市場での競争力を強化

当社は、製品価値を最大限に高め、国内毛織物産業の海外市場での競争力を強化することを目的として、ニッケ岐阜工場（岐阜県各務原市）にトップメイキング工程※1を構築することを決定しました。

■背景と課題：サプライチェーンの見直し

- ・海外からの原料調達リスク：現在は紡績に必要な羊毛トップを海外調達に依存
- ・国際基準への対応：トレーサビリティ、人権、環境配慮への対応等が急務



ニッケ岐阜工場

■国内生産体制構築の狙い 稼働予定：2027年3月

・高品質な「日本製ウール」による競争力強化

- ・原料輸入時の含水量変化などによる劣化リスクを排除
- ・良質な羊毛トップの使用により、最高品質の製品を供給

・「トレーサビリティ」の強化

- ・原毛をタイプ毎に指定牧場から買付け
- ・品質基準を満たす豪州・ニュージーランドの指定工場での洗毛

・最新設備による「環境負荷」の低減

- ・最新の機械設備導入により、CO2排出量を約20%削減※2

毛織物の工程



※1 羊毛を機械で梳（す）いて繊維を整え、糸の基材となる高品質な「羊毛トップ」を生成する前工程。

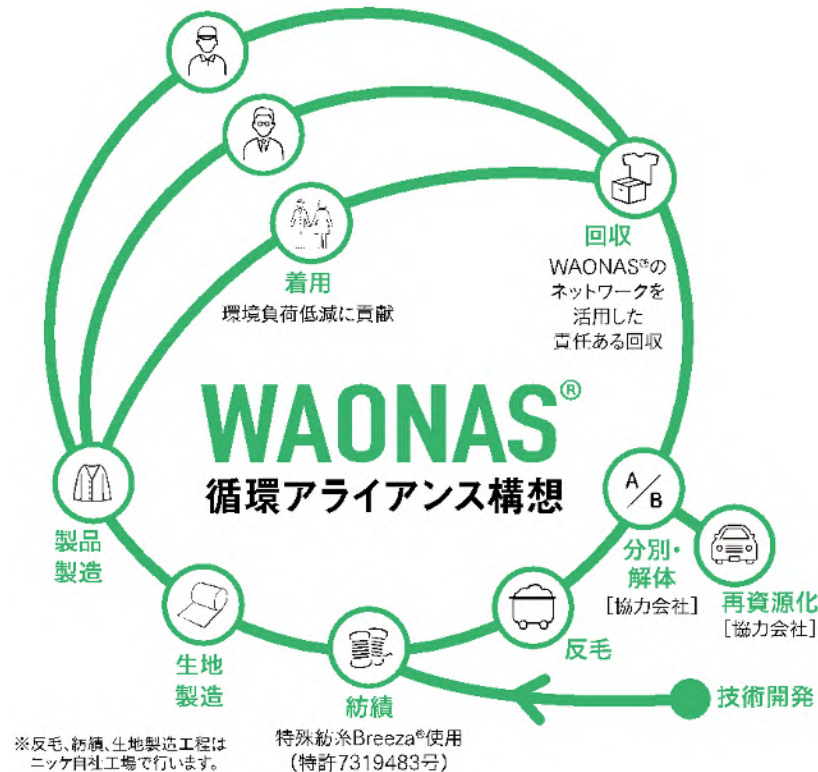
※2 当社において過去に国内生産していた時との比較。

トピックス

02 循環プロジェクトWAONAS(ワオナス)を推進



当社は、自治体・学校やインフラ企業との連携を通じ、ウール混衣料の「服から服へ」の再資源化を加速し、地域と産業の双方から脱炭素・循環型社会の実現に貢献する具体的な取り組みを推進していきます。



WAONAS. 新たな取り組み

福岡県春日市との連携



福岡県春日市と連携し、公立中学校の使用済み制服の回収・再資源化を段階的に推進。2026年3月より回収を始め、2027年4月から新制服への切り替えを進める予定。

京成グループとの連携



京成グループと連携し、使用済み制服の回収・再資源化を段階的に推進。グループのバス事業4社の新制服に再資源化原料を一部活用予定。

【WAONAS循環アライアンス構想】

企業・学校等から使用済み衣料を回収し、ニッケをはじめとした流通・製造のグループ各社の協力により衣料循環を共創する事業構想。循環の輪を築くことで、回収量や品質の変動リスクを分散し、技術共有を通じて高品質で安定的な環境保全活動を推進。

2. 2026年11月期 業績予想



事業環境認識



衣料繊維 事業	● 国内では少子化により10数年後には学生数が30%以上減少。 ● 一方で世界の衣料市場は成長が見込まれ、海外市場への取り組みが必須。 ● 国内毛織物産地の疲弊が進んでいる中で、ニッケグループの国内一貫生産体制の強みを軸としたバリューチェーンの再構築が必要。 ● 持続可能な社会の実現に寄与する環境配慮型素材や繊維製品の資源循環、多様性への対応が事業戦略上のキーワードとなる。 ● 中東情勢の影響により一部原材料の価格高騰やエネルギー費上昇等の影響を受ける恐れがある。
産業機材 事業	● 自動車関連分野はアメリカの関税政策や中国市況の影響を受ける。 ● 環境関連分野は環境規制の強化にともない世界的にビジネスチャンスが拡大。 ● 家電・OA分野は海外での拡大を見込む。 ● リサイクルビジネスなどSDGsを意識した市場の拡大が見込まれる。 ● 中東情勢の影響により一部原材料の価格高騰やエネルギー費上昇等の影響を受ける恐れがある。
人とみらい 開発事業	● ショッピングセンターは地域に根付いており堅調に推移。不動産開発分野ではZEB Ready認証を取得した高環境性能オフィスビルなど資産価値を高めた物件の引合いが増える。 ● ライフサポート分野では介護関連市場は引き続き拡大していくものの、介護人員の不足を見越した運営手法やサービスの構築が必要となる。 ● 中東情勢の影響により建築資材の高騰、調達難等による工事遅延等の影響を受ける恐れがある。
生活流通 事業	● エコマース市場はその利便性から引き続き成長が見込まれる。 ● 一方で、ボーダレス化から中国を始めとする海外勢の直接参入やメーカー直販により競争が激化。また、円安の長期化により仕入価格や物流費の高騰が継続し、広告宣伝費用の上昇基調も続く。 ● 中東情勢の影響により一部仕入れ商品の価格高騰等の影響を受ける恐れがある。

中東情勢の影響



原材料やエネルギー費高騰の影響を受ける恐れがあるものの、各対策等の実施により当期業績（営業利益）への影響は概算で約▲150百万円程度となる見通し

	想定される主な影響	主な対策	当期業績への影響※
衣料繊維事業	・ユニフォーム生地の原材料の一部となるポリエステル価格の高騰 ・工場の物流費、染料・薬品、エネルギー費、副資材等の上昇 等	・原材料の早期確保 ・製造合理化や省エネ、省力化推進によるコスト低減 ・製品への価格転嫁 等	▲20百万円
産業機材事業	・不織布・フェルトの原材料の一部となるポリエステル価格の高騰 ・工場の物流費、染料・薬品、エネルギー費、副資材等の上昇 等	・原材料の早期確保 ・製造合理化や省エネ、省力化推進によるコスト低減 ・製品への価格転嫁 等	▲70百万円
人とみらい開発事業	・建築資材の高騰、調達難等による工事遅延 ・各施設の光熱費の上昇 等	・建築資材等の早期発注、工事工程の調整 ・取引先との価格交渉 等	▲10百万円
生活流通事業	・一部仕入れ商品の価格高騰 ・不要不急品の買い控え等による販売減少 等	・早期発注 ・製品への価格転嫁 等	▲50百万円

※ 当期の業績予想（営業利益）に織り込んでいる概算影響額

2026年11月期 業績予想



	実績	業績予想	前期比増減	
	2025/11月期	2026/11月期	金額	比率
(単位：百万円)				
売上高	119,377	130,000	10,623	8.9%
営業利益	11,913	13,000	1,087	9.1%
営業利益率	10.0%	10.0%	0.0pt	-
経常利益	12,967	13,400	433	3.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	9,090	9,500	410	4.5%

- ✓ 2026年度の全社数値目標は、当初業績予想を据え置き、増収増益を見込む。
- ✓ セグメント別では、衣料繊維事業および生活流通事業は足元の事業環境等を踏まえ営業利益を下方修正した一方、事業が堅調に推移する産業機材事業は営業利益を上方修正。

2026年11月期 セグメント別業績予想



(単位：百万円)		実績	業績予想		前期比増減	
		2025/11月期	2026/11月期		金額	比率
			2026.1.15	2026.7.15		
衣料繊維	売上高	30,282	34,000	34,000	3,718	12.3%
	営業利益	2,645	3,400	3,000	355	13.4%
	営業利益率	8.7%	10.0%	8.8%	0.1pt	-
産業機材	売上高	35,177	43,000	43,000	7,823	22.2%
	営業利益	2,875	3,000	3,200	325	11.3%
	営業利益率	8.2%	7.0%	7.4%	-0.8pt	-
人とみらい 開発	売上高	26,679	26,000	26,000	-679	-2.5%
	営業利益	6,772	7,200	7,200	428	6.3%
	営業利益率	25.4%	27.7%	27.7%	2.3pt	-
生活流通	売上高	23,199	23,000	23,000	-199	-0.9%
	営業利益	1,051	1,200	1,100	49	4.7%
	営業利益率	4.5%	5.2%	4.8%	0.3pt	-
その他 調整	売上高	4,038	4,000	4,000	-38	-0.9%
	営業利益	-1,432	-1,800	-1,500	-68	-
合計	売上高	119,377	130,000	130,000	10,623	8.9%
	営業利益	11,913	13,000	13,000	1,087	9.1%
	営業利益率	10.0%	10.0%	10.0%	0.0pt	-

2026年11月期 業績予想増減要因 (前期比)

	業績予想 (前期比) 2026年/11月期	主な増減要因
衣料繊維	売上高 +3,718百万円  営業利益 +355百万円 	・ビジネスユニフォーム縫製品の販売増加 ・海外テキスタイル、ニット製品の販売増加
産業機材	売上高 +7,823百万円  営業利益 +325百万円 	・不織布、フェルト事業の販売拡大、合理化推進 ・カコテクノスの通期連結開始
人とみらい 開発	売上高 ▲679百万円  営業利益 +428百万円 	・不動産再開発の収益貢献本格化 (八重洲通フィルテラス等) ・通信事業の撤退、学童保育事業の縮小
生活流通	売上高 ▲199百万円  営業利益 +49百万円 	・不採算事業、製品の縮小 ・各種効率化等による収益性の改善
その他	売上高 ▲38百万円  営業利益 ▲68百万円 	・調整、予備費等

3. 資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた対応



資本収益性向上に向けた取り組み



現状の課題認識

収益力の強化に加えROICを重視した経営の徹底、また純資産の積み上がりに対応したバランスシートの適正化ならびに成長投資と株主還元の両面を重視した資本政策の推進が課題と認識

利益創出の強化	資産効率の向上	資本政策の強化	IR強化
● RN130第3次中期経営計画を推進・達成する	● 保有不動産の更なる効率化（不採算物件の再開発、処分など）	● 株主還元の強化	● ステークホルダーがニッケグループへの理解や信頼を高めることができるよう対話の強化を図る
● 事業ポートフォリオの最適化を図る（成長事業への投資、不採算事業の見直し）	● 非稼働資産の圧縮（保有意義のない政策保有株式の整理など）	● 配当性向については、現行の30%目安から順次切り上げ、第3次中計最終年度での35%を目指す	● M&A戦略や事業多角化戦略を説明し、ニッケグループの成長ストーリーを発信する
	● 投資基準としてROICを指標として継続する（目標8%・最低5%以上）	● DOE（株主資本配当率）を指標とし、第3次中計最終年度での2.5%を目標とする	● 情報開示の拡充・高度化を進める（IR資料の英文対応など）
		● 投資の進捗も鑑みて機動的な自己株式取得を行い、総合的な株主還元を充実させる	

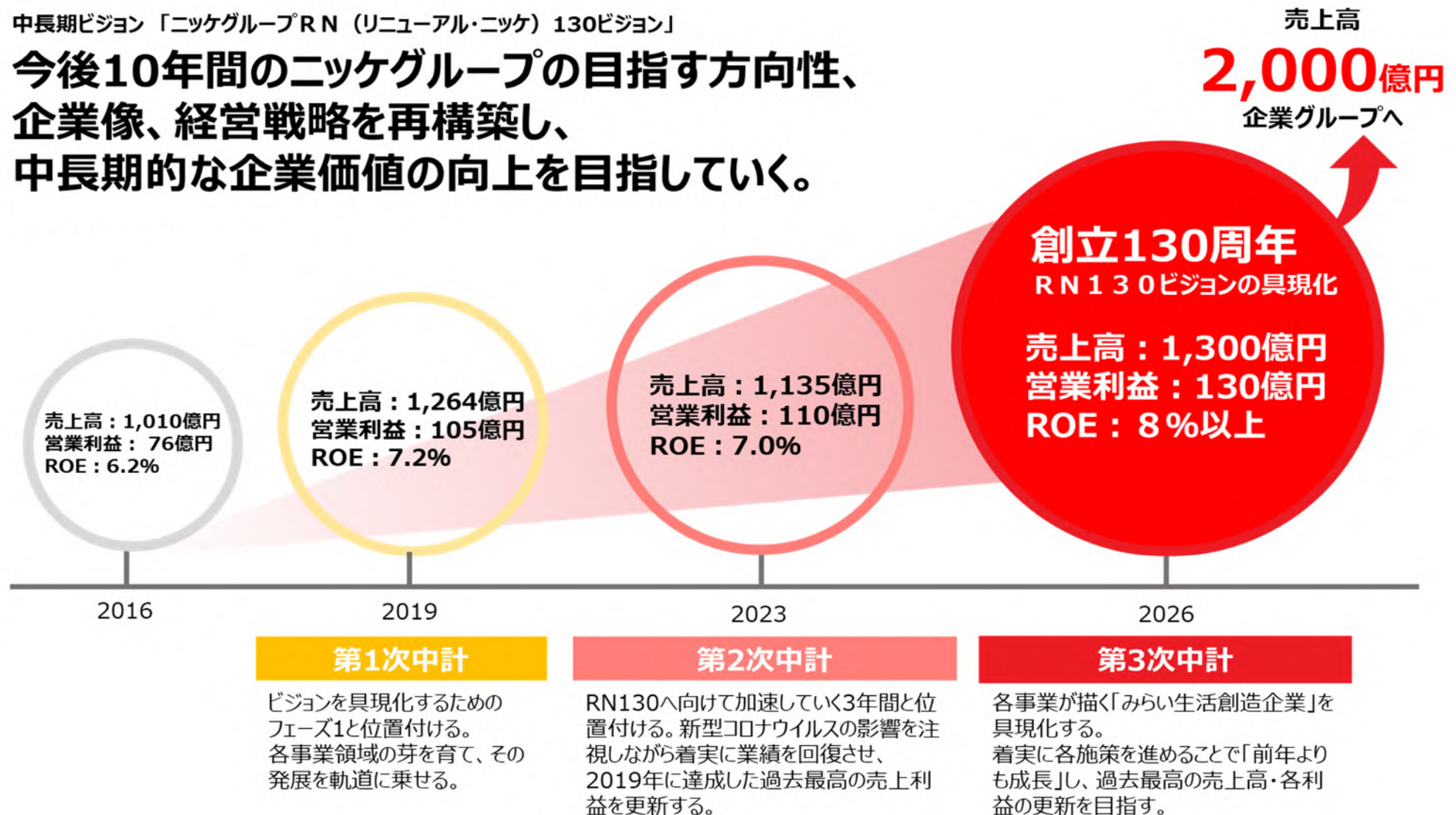
資本収益性を意識した経営を推進し、
ROE8%目標の達成と**PBR1倍超**を目指してまいります。

中長期ビジョン RN130ビジョン (2016年1月公表)

ニッケ グループ

中長期ビジョン「ニッケグループRN（リニューアル・ニッケ）130ビジョン」

今後10年間のニッケグループの目指す方向性、
企業像、経営戦略を再構築し、
中長期的な企業価値の向上を目指していく。



RN130第3次中計進捗



RN130第3次中計（2024～2026）

	2024/11		2025/11		2026/11	
(単位：百万円)	中期計画	実績	中期計画	実績	中期計画	2026.7.15 業績予想
売上高	111,000	115,438	120,000	119,377	130,000	130,000
営業利益	11,000	11,640	12,000	11,913	13,000	13,000
営業利益率	9.9%	10.1%	10.0%	10.0%	10.0%	10.0%
経常利益	11,600	12,098	12,400	12,967	13,400	13,400
親会社株主に帰属する 当期純利益	7,700	8,970	7,800	9,090	8,800	9,500
ROE	—	7.6%	—	7.1%	8.0%以上	—

- ✓ 2025年度は経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益で目標を達成
- ✓ 2026年度は中計最終年度として更なる売上・利益の成長と資本効率改善を図ると共に、次期成長に向けた基盤強化を進める

RN130第3次中計進捗 セグメント別



		R N 130第3次中計（2024~2026）					
		2024/11		2025/11		2026/11	
(単位：百万円)		中期計画	実績	中期計画	実績	中期計画	2026.7.15 業績予想
衣料繊維	売上高	32,500	31,557	35,500	30,282	39,500	34,000
	営業利益	3,450	3,455	3,700	2,645	4,300	3,000
	営業利益率	10.6%	10.9%	10.4%	8.7%	10.9%	8.8%
産業機材	売上高	26,000	30,836	29,000	35,177	31,000	43,000
	営業利益	1,850	1,972	2,100	2,875	2,550	3,200
	営業利益率	7.1%	6.4%	7.2%	8.2%	8.2%	7.4%
人とみらい 開発	売上高	26,000	26,488	26,500	26,679	30,000	26,000
	営業利益	6,200	6,977	6,250	6,772	7,200	7,200
	営業利益率	23.8%	26.3%	23.6%	25.4%	24.0%	27.7%
生活流通	売上高	24,500	22,527	26,000	23,199	31,500	23,000
	営業利益	1,350	847	1,750	1,051	2,000	1,100
	営業利益率	5.5%	3.8%	6.7%	4.5%	6.3%	4.8%
その他 調整	売上高	2,000	4,028	3,000	4,038	-2,000	4,000
	営業利益	-1,850	-1,611	-1,800	-1,432	-3,050	-1,500
合計	売上高	111,000	115,438	120,000	119,377	130,000	130,000
	営業利益	11,000	11,640	12,000	11,913	13,000	13,000
	営業利益率	9.9%	10.1%	10.0%	10.0%	10.0%	10.0%

ニッケグループの成長ストーリー



成長ドライバーの 育成

産業機材

不織布・フェルト事業、機材（FA）事業を今後の成長ドライバーと位置づけ、ユニフォーム、不動産開発事業に次ぐ第3・第4の収益の柱に強化する

安定基盤の収益性 をさらに強化

衣料繊維

省人・自動化の設備投資等による製造合理化で収益性をさらに強化する

人とみらい開発

不動産再開発や不採算事業の縮小等で収益性をさらに強化する

海外販路開拓

衣料繊維

海外のハイブランド・ミドルブランドにテキスタイル生地等の販売を拡大する

生活流通

販売チャネルとしてECを活用し、海外販売の拡大を図る

新たなビジネス の構築

全社

環境問題等の社会的課題解決に貢献する新たなビジネスモデルを構築する

成長を支えるM&A

ニッケグループの成長にこれまで大きく貢献してきたM&Aを
今後も積極的かつ慎重に実施していく

産業機材 成長戦略



成長ドライバー 不織布・フェルト事業の強化

ニッケグループ

不織布・フェルト事業強化のこれまでの取り組み

2020年 5月 ニッケ・アンビックとフジコーの間で資本業務提携契約を締結（30.7%の株式取得）

2021年 1月 フジコーでの生産をアンビックへ移管

2021年 9月 ニッケがフジコーを完全子会社化

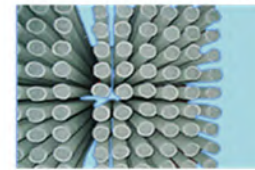
2023年12月 アンビックとフジコーが経営統合

→ 株式会社エフアンドエイノウブズ

2024年 4月 東洋紡カンキョーテクノの株式を取得 ※

2024年 8月 呉羽テックの株式を取得

カンキョーテクノの主な製品

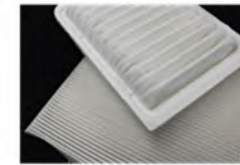


フィルター・バッグ関連



エアフィルター関連

呉羽テックの主な製品

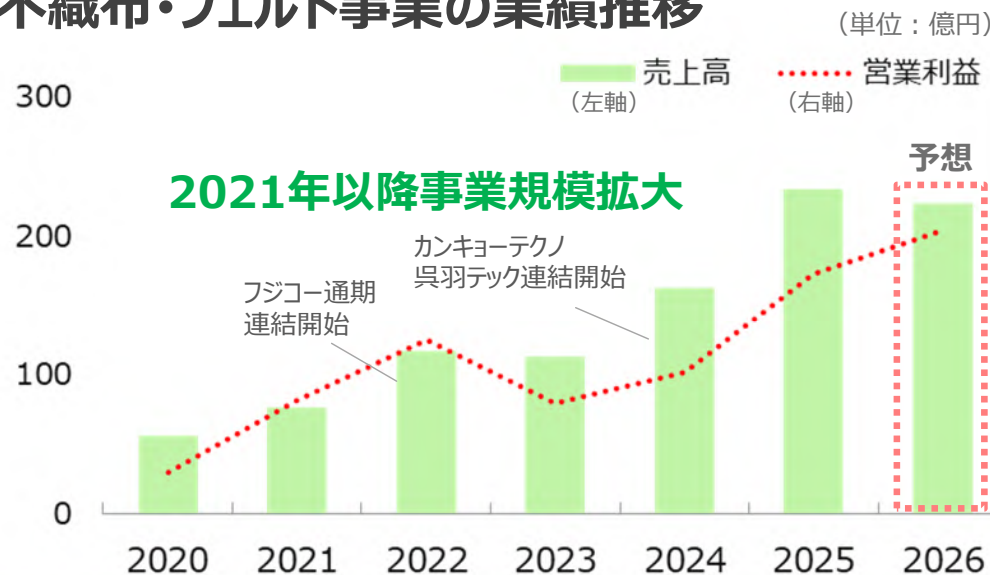


自動車関連（機能材、内装材）



フィルター関連

不織布・フェルト事業の業績推移



不織布・フェルト事業は、2020年から2025年にかけて**売上高は約4倍、営業利益は約6倍**に拡大。

当社グループ加入前は**3期連続赤字**の旧フジコーは、アンビックとの生産集約や販売拠点の統合等により**2022年に黒字化**。カンキョーテクノ、呉羽テックについても同じノウハウを活用し**2025年以降さらなる合理化を図る**

※ 株式会社東洋紡カンキョーテクノは2024年4月17日付で商号を「株式会社カンキョーテクノ」に変更しております。

産業機材 成長戦略



成長ドライバー 不織布・フェルト事業の強化

ニッケグループ

ターゲット市場

- ターゲットとする領域は当社にとって市場の成長が見込める**自動車・環境関連等**の工業用資材分野
- 価格競争の影響を受けやすい汎用品の衛生材（マスク）等は注力分野と位置付けない

不織布・フェルト市場

衛生材（マスク・おむつ等）

ターゲット市場

自動車・環境関連分野



ゴミ集塵機用フィルター



古着反毛



自動車用内装資材

競争優位性

- **売上規模の拡大による競争力の向上**
2024年8月に呉羽テックをグループに加え、不織布・フェルト事業の売上規模は約230億円に拡大、**市場シェアは国内2位**※1に浮上。
- **グローバルな製造・販売拠点の活用**
カンキョーテクノ、呉羽テックがグループに加わり、中国・ASEAN、北米地域の製造・販売拠点が拡充。顧客のニーズに合わせた多様な事業展開に対応。

今後の成長戦略

- **北米での自動車用内装資材の販売拡大**
北米の拠点を活用し、自動車用内装資材の販売を拡大していく。
- **ベトナム・インドネシアでの生産販売体制の強化**
生産設備の増強や工場移転拡大により**生産能力・生産性ともに向上**。適地適品生産で受注の拡大を目指す。
→ 2023年にベトナムの工場を移転拡大、2025年にインドネシア製造ラインを増強。

北米やASEAN地域を中心に**海外販売**を拡大

海外販売拡大を重点課題と位置付け、事業環境を見極めながら各施策を着実に推進

※1 ニードルパンチ式、ケミカルボンド式製法による不織布・フェルト市場のシェア（当社調べ）

産業機材 成長戦略



機材事業の強化

ニッケグループ

(株)カコテクノスのグループ化により産業機材分野での事業領域を拡大

ニッケグループの機材事業

NKS

株式会社ニッケ機械製作所

車載電装品・部品・センサー、二次電池、半導体の製造・検査装置を中心とした、F A 事業が主力事業。

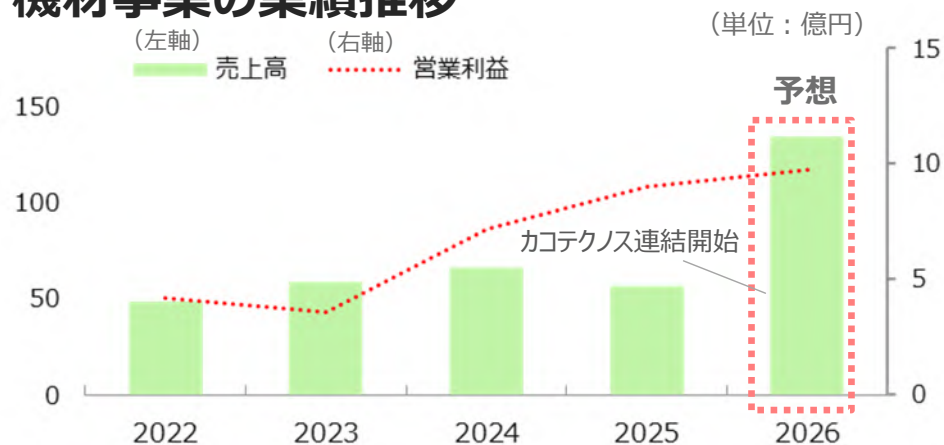
KAKO

株式会社カコテクノス

制御機器装置の製造メーカー。設計・部品調達・組立・試験検査迄を一貫して手掛けており鉄道車両用のブレーキ装置が主力製品。

→ 鉄道車両用のブレーキ装置は日本国内の90%以上の
鉄道会社の鉄道に搭載され国内生産シェアは約50%

機材事業の業績推移



ターゲット市場

- 主にターゲットとする領域は当社にとって市場の成長が見込める「車載」「バッテリー」「半導体」関連分野等。
- カコテクノスのグループ化により、新たに「鉄道」関連分野を事業領域に加える。

カコテクノスとのシナジー

- 人的支援・交流および製造ノウハウの共有
ニッケグループからの人財支援やニッケ機械製作所との設計・製造技術に係るノウハウを共有できる。
- 生産能力の増強
ニッケグループの資本力を活用する事で、今後の需要動向に応じ生産能力(設備投資)の増強が可能となる。
- 鉄道以外の新たな分野への進出
ニッケ機械製作所との連携を強化する事で、新たな事業領域への進出を検討していく。

カコテクノスのPMIは概ね計画通りに進んでおり、当期の業績にも貢献する見通し

衣料繊維 成長戦略



海外販売拡大と国内製造強化

ニッケグループ

海外ターゲット市場

■ 欧州アパレル市場

- ・ハイブランド、ミドルブランド向けのテキスタイル生地販売を強化

ハードな風合いや仕立て映えは、欧米・アジアのテキスタイルメーカーとの差別化要因の一つ



- ・パリでの個展開催や現地人員の登用により顧客接点の増加を図る



パリでの単独個展開催

国内製造力と収益性の更なる強化

- 省人・省エネ・自動化の設備投資やデジタル技術の活用による製造の合理化等で製造力と収益性を強化



要員(人員)配置の最適化

- ・衣料繊維の収益性を改善
- ・産業機材事業等で人財を活用

- 岐阜工場にトップメイキング工程新設(2027/3 稼働予定)
海外依存していた羊毛トップの調達体制を見直し、高品質な「日本製ウール」供給体制を構築。

国内生産体制構築の狙い

- ・原料劣化リスクを低減し、品質を安定化
- ・トレーサビリティを強化し、調達の透明性を向上
- ・最新設備導入でCO₂排出量約20%削減 ※1

ニッケ岐阜工場にトップメイキング工程を新設し、製品価値向上と海外競争力の強化を図る

※1 当社において過去に国内生産していた時との比較

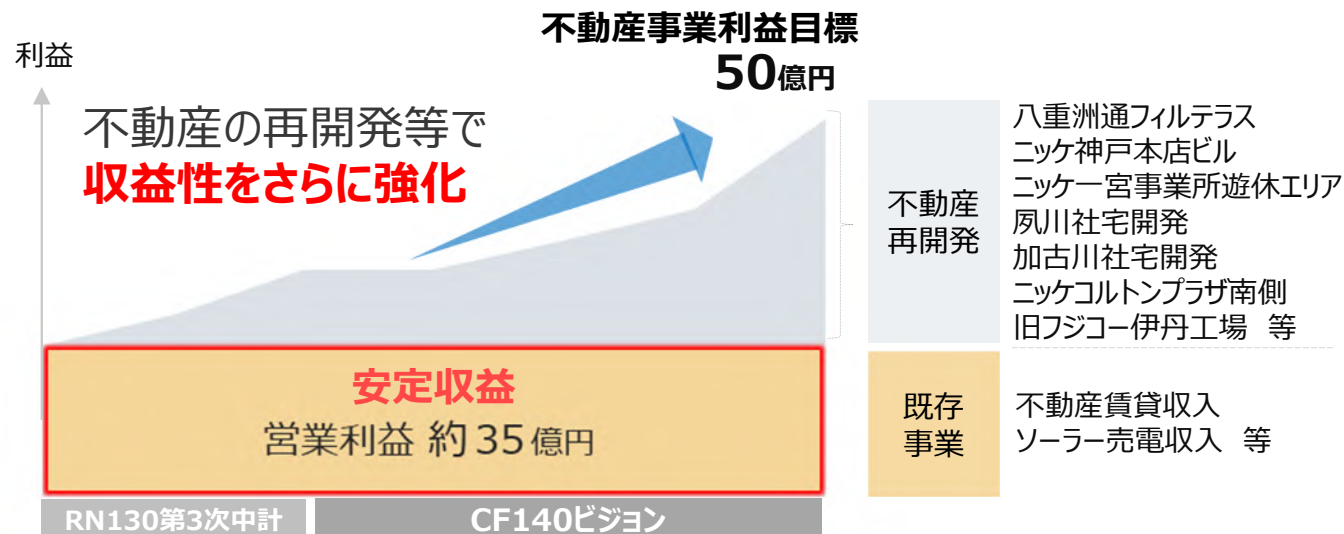
人とみらい開発 成長戦略



不動産再開発の進捗

ニッケグループ

再開発案件	所在地	収益 貢献	フェーズ	進捗スケジュール（予定）		
				2025	2026	2027
八重洲通フィルテラス	東京都中央区	大	収益化	済	（先行経費等発生）	収益貢献本格化
ニッケ神戸本店ビル	兵庫県神戸市	小	収益化	済	収益貢献本格化	
ニッケ一宮事業所（遊休）	愛知県一宮市	中	収益化	済	収益貢献本格化	
夙川社宅跡地開発	兵庫県西宮市	小	収益化		済	収益貢献本格化
加古川社宅跡地開発（1期）	兵庫県加古川市	小	開発中			工期（予定）
ニッケコルトンプラザ南側	千葉県市川市	大	検討	開発プラン検討（予定）		
旧フジコー伊丹工場	兵庫県伊丹市	大	検討	開発プラン検討（予定）		



八重洲通フィルテラス



ニッケ神戸本店ビル



夙川社宅跡地開発



ニッケコルトンプラザ南側



旧フジコー伊丹工場

2026年度より八重洲通フィルテラスの収益貢献が本格化（全テナント入居済み）

人とみらい開発

成長戦略



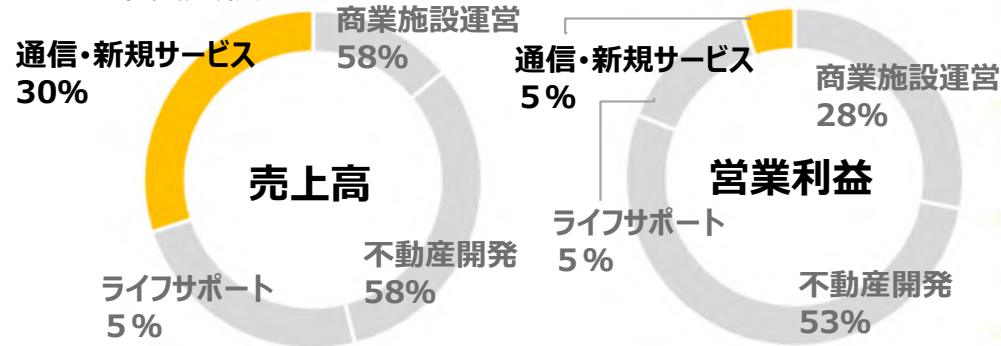
事業ポートフォリオの見直し

ニッケグループ

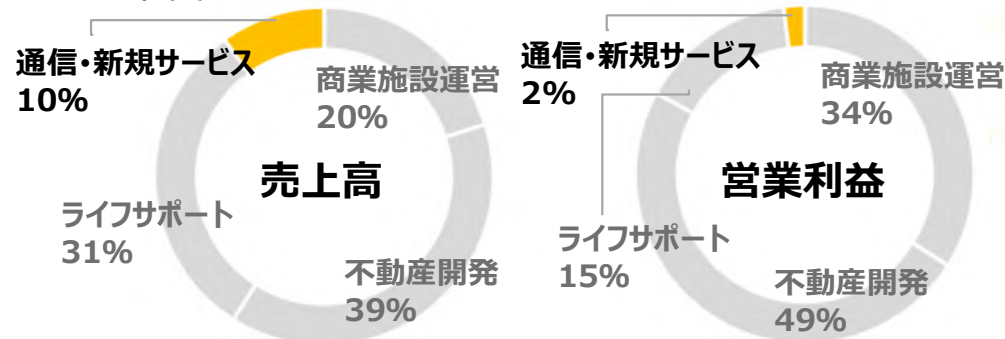
人とみらい開発事業では収益性等の観点から2024年以降縮小していた、通信・新規サービス分野を2026年4月に完全撤退。

人とみらい開発：事業ポートフォリオ構成

<2023年度実績>

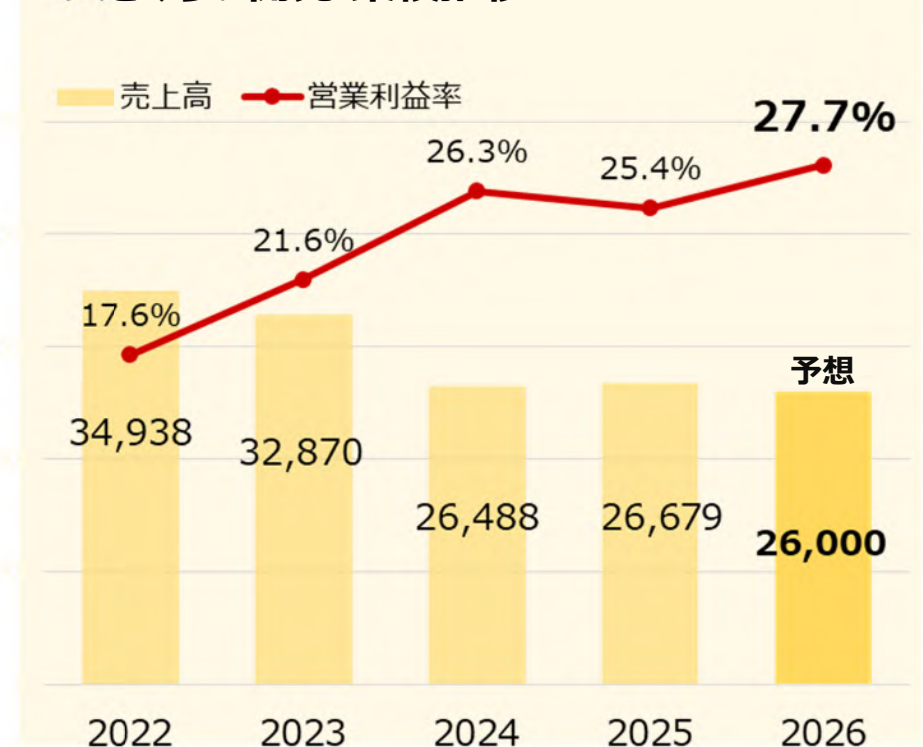


<2025年度>



人とみらい開発 業績推移

(単位：百万円)



2026年度は、通信・新規サービス分野の撤退と不動産再開発等により、収益性改善の見通し

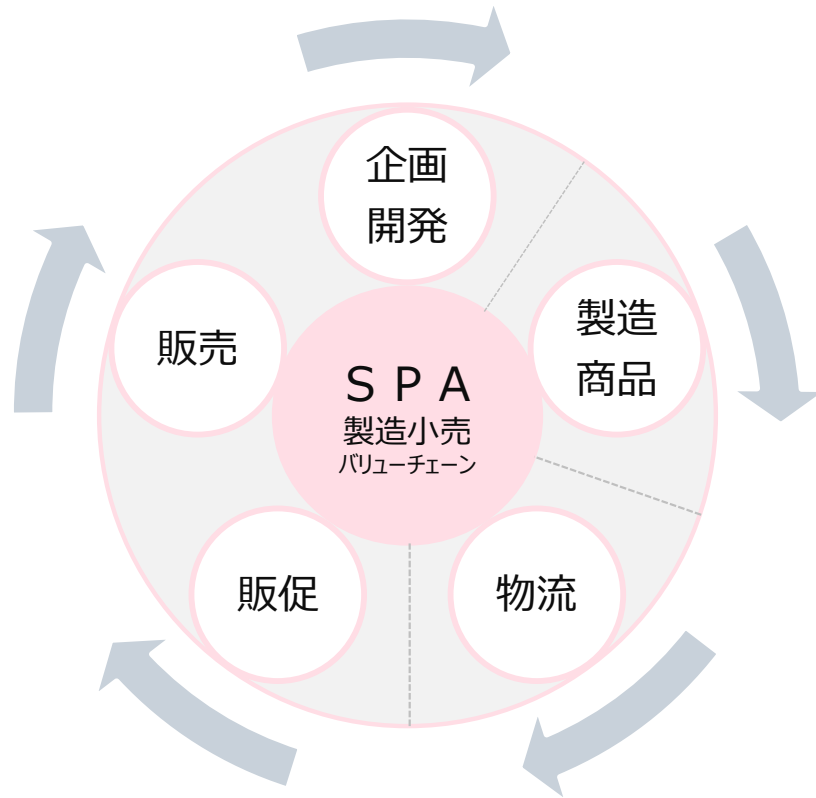
生活流通 成長戦略



新たな販路の開拓

ニッケグループ

新たな販路開拓に向けた取り組み



将来に向けて最適な**バリューチェーン**の構築を目指す

海外やEC等新たな販路の開拓に向け最適なバリューチェーンの構築を目指すと共に、**事業のグループ化**や**オリジナルの自社商品の開発**等により**収益性の改善**を図る

収益性強化に向けた取り組み

①事業のグループ化

生活流通事業所管の11社を事業内容別に5つにグループ化し、会議体の統合、共同仕入、商品開発等を一体運営を推進

②EC機能の強化

EC販売を主体とするミヤコ商事、AQUA、サンコー、インテリアオフィスワン4社の人財・システム・ノウハウの共有化を進め、企画開発・販売力をさらに強化する。

③物流の合理化

物流業務の集約等による効率化を進める。

主なEC関連商材



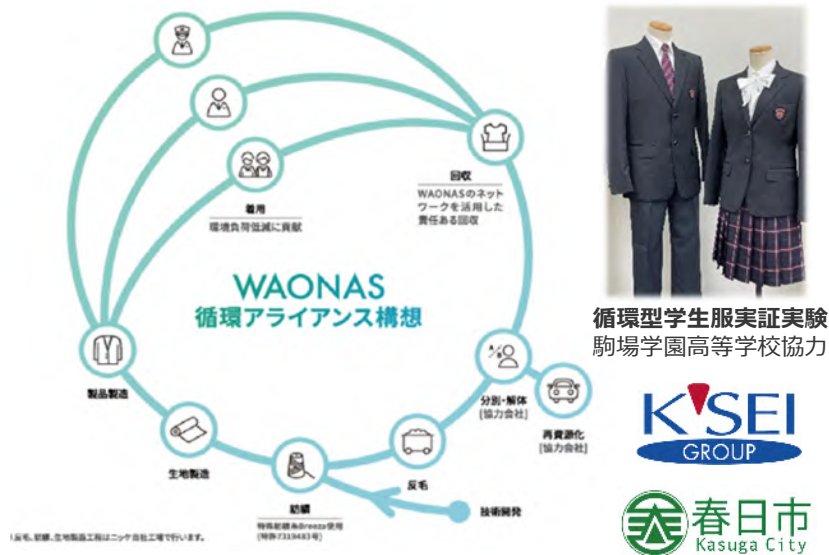
成長戦略

持続可能な社会の実現への取り組み

ニッケグループ

環境問題等、社会的な課題解決の貢献を目指し、次の成長に繋がる新たなビジネスモデルを構築する

「服から服」への循環プロジェクト
WAONAS(ワオナス)を開始



使わなくなったウール衣料品を回収・再生し廃棄ゼロを目指す、「服から服」への循環プロジェクト**WAONAS（ワオナス）**をスタートし、資源循環システムの構築を推進。

古着の反毛リサイクルの取り組み



古着からジッパーやボタンなどの異物を除去する工程を自動化する事で、繊維製品の資源循環システム構築上の課題解決に貢献。

繊維to繊維の資源循環構築の実現

繊維企業等6社※は「繊維to繊維」の資源循環構築を実現する為のコンソーシアムを設立。当プロジェクトは、国立研究開発法人「NEDO」が公募する「バイオものづくり革命推進事業」に採択。

循環プロジェクト「WAONAS」は、京成グループや春日市（福岡県）と新たに連携を開始

※ 帝人フロンティア株式会社、倉敷紡績株式会社、公益財団法人地球環境産業技術研究機構（RITE）、東レ株式会社、日清紡テキスタイル株式会社、日本毛織株式会社

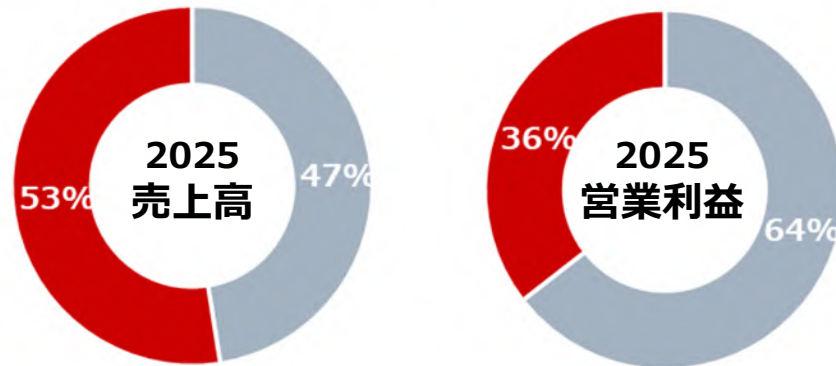
成長戦略

戦略的M&Aの実施

ニッケグループ

M&Aの業績への寄与 ※

■ M&Aで加わった会社 ■ 既存事業



M&Aの実績（直近5年間）

- 2021.9  株式会社 **フジコー** 不織布の製造販売等
- 2022.11 **THANKO** 生活家電の企画・卸売・小売
- 2023.6 **Interior Office One** 家具・寝具の企画・販売等
- 2024.4  株式会社 **カンキョーテキ** フィルターバグの製造販売等
- 2024.8  呉羽テック株式会社 不織布の製造販売等
- 2025.10  **KAKO** 株式会社 **カコテクス** 鉄道用制御装置の製造販売等



M&Aの基本戦略

投資基準

ROIC : 目標 8 % (最低 5 %)

対象会社の収益予測を徹底的に行うとともに、のれん代の評価額を営業利益5年分以内にするを条件とし、買収価格の高騰に歯止めをかけている。

■ 事業領域の拡大

- ・既存事業と親和性の高い分野を対象とし、商品ラインナップやバリューチェーンの拡充を図る

■ 人財の獲得

- ・専門的な知識や技術を有する人財を確保する

■ 収益力の強化

- ・長年にわたるM&Aで培ったノウハウやニッケグループの総合力を活かし、様々な合理化を図る（生産統合・不動産開発 等）

2026年度も複数のM&A案件について、シナジーや成長性、投資効率を見極めながら、検討を継続

※ 1995年以降M&Aでニッケグループに加わった会社を対象

資産効率の向上

ニッケグループ

■ 保有不動産の活用の強化

- ・八重洲通フィルテラス竣工（旧ニッケ東京ビル）
- ・一宮事業所遊休エリア（愛知県）の土地賃貸
- ・ニッケ神戸本店ビル（兵庫県）の耐震改修工事完了
- ・夙川社宅跡地（兵庫県）の開発完了（賃貸集合住宅）
- ・加古川社宅跡地開発（兵庫県）の開発着手
- ・コルトンプラザリニューアル後の集客力維持向上 等



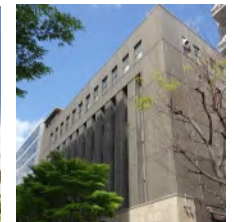
八重洲通フィルテラス



一宮事業所遊休エリアの土地賃貸



夙川社宅跡地開発

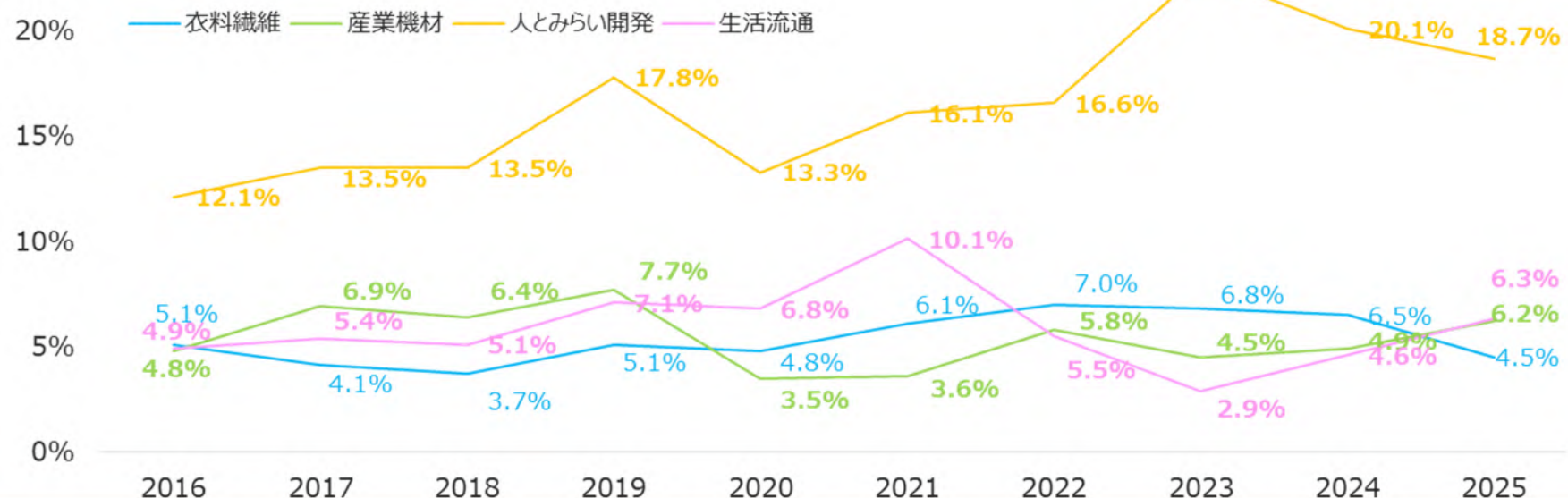


ニッケ神戸ビル

■ 規律ある投資の実行

- ・投資基準：ROIC 目標 8%・最低 5%

【セグメント別ROIC推移】



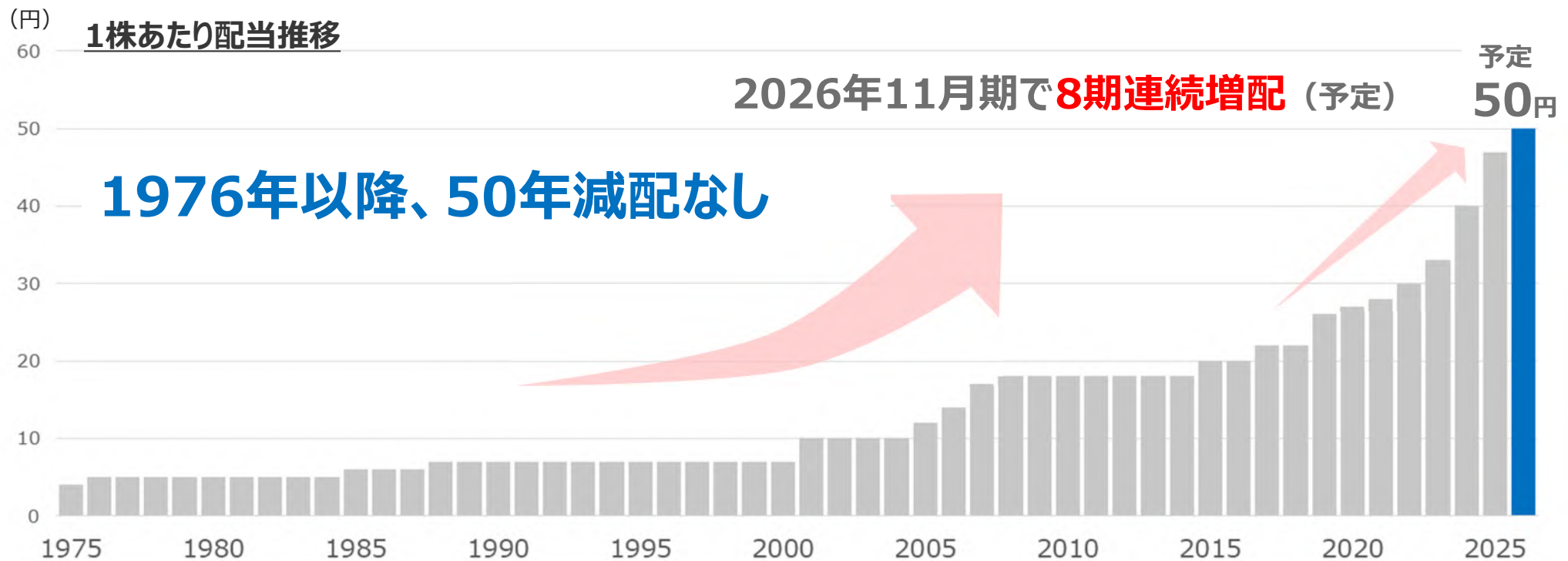
資本政策強化

ニッケグループ

■ 減配しない「累進配当」をベースに株主還元を拡大

- ・2026年11月期は前期より **3 円増配**し1株あたり年間 **50円**の配当を予定
- ・2026年3月には**200万株**（発行済株式総数に対する割合※：2.98%）の自己株式取得を実施
- ・中計最終年度2026年11月期の目標は**配当性向 35%、DOE 2.5%**（2025年11月期に前倒しで達成）

※2025年1月10日公表

株主還元方針の見直し：投資家の意見等も踏まえ累進配当・DOE 2.5%目標を方針に追加

※ 発行済株式総数に対する割合は自己株式を除く

IRの強化



株主・投資家との対話を通じ、持続的な成長と中長期的な企業価値向上に努めています

■ 情報開示の強化

- 決算説明会の動画、質疑応答（要旨）の開示
- 英文資料の開示（決算短信サマリー・決算説明資料・統合報告書等）
- マテリアリティの特定・対応方針・取り組み実績等の開示
- 個人投資家向け説明会の動画、プレゼンテーション資料の開示
- 株主総会動画の開示
- IR専門部署（広報IR・総務法務室）の整備 等



■ 対話の取り組み状況

- 株主・投資家との対話は財經室・経営企画室・広報IR・総務法務室が連携して対応しております。
- 2025年度はIR・SR面談をあわせて49回実施、また個人投資家向け説明会を1回開催しました。
- 対話で得られた認識や課題は、各事業部とのミーティング、グループ経営会議、取締役会等の場で共有し、資本コストや株価を意識した経営の参考にさせて頂いております。

対話の主なテーマや関心事項

今後の成長ドライバー・不動産事業の方針・第3次中期経営計画・M&A戦略・資本政策（株主還元）
キャッシュフロー・ガバナンス全般（買収防衛策・政策保有株式等）等

株主・投資家との対話事例



質問事項	当社の対応・方針
Q.M&A戦略の特色は？	事業領域の拡大・人財の確保・収益力の強化等を目的とする。現在、売上で約53%、営業利益で約36%がM&Aでニッケグループに加わった会社※の業績が占める。これまでの実績が評価され、現在当社には多くの案件が持ち込まれ、常時約400件程精査している。その中から実行するのは、毎年厳選した1～2件。投資基準にROICを用い規律を守りながらも積極的にM&Aを行うのが特色。高値掴みしない事を強く意識している。
Q.株主還元方針の考え方は？	創業以来、安定配当を強く意識。オイルショック後の1976年以来50年間一度も減配していない。一方で現状の株主還元水準では年々純資産が積み上がってしまい、資本効率がなかなか改善しないのが課題。当社の目標水準が決して高くない事も認識しており、適正な水準について社内で継続的に議論している。
Q.不動産事業の方針・考え方は？	不動産事業は衣料繊維の工場跡地再開発から始まった。単なる賃貸でなく、商業施設、介護・保育、スポーツ施設等自ら運営することで付加価値を高めてきた。現在、人とみらい開発事業の営業利益の約80%が商業施設のテナント収入とオフィスビル等の不動産賃貸収入となっている。また最近では、M&A等でグループに加わった会社の遊休地を再開発するなど、不動産事業のノウハウを活かして事業を展開している。
Q.衣料繊維事業が低調な理由は？	スクールユニフォームの販売が低迷している事が主因。近年、LGBTQに配慮した学生服へのモデルチェンジが急増していた事や約3年前に学生服の納品が入学式に間に合わない事例が生じた事を背景に、流通全体で在庫過多となり、販売が減少した。これに伴い生産量も減少し製造効率が悪化した事で、利益率の低下を招いた。流通在庫調整の影響は、2026年度にも影響を及ぼす見込み。
Q.中東情勢の影響は？	原材料やエネルギー費高騰の影響を受ける恐れがあるものの、原材料の早期確保や製造合理化、省エネ・省力化推進によるコスト低減、販売価格への転嫁等、各対策の実施により2026年業績への影響は営業利益ベースで▲150百万円程度となる見通し。

※ 1995年以降M&Aでニッケグループに加わった会社を対象

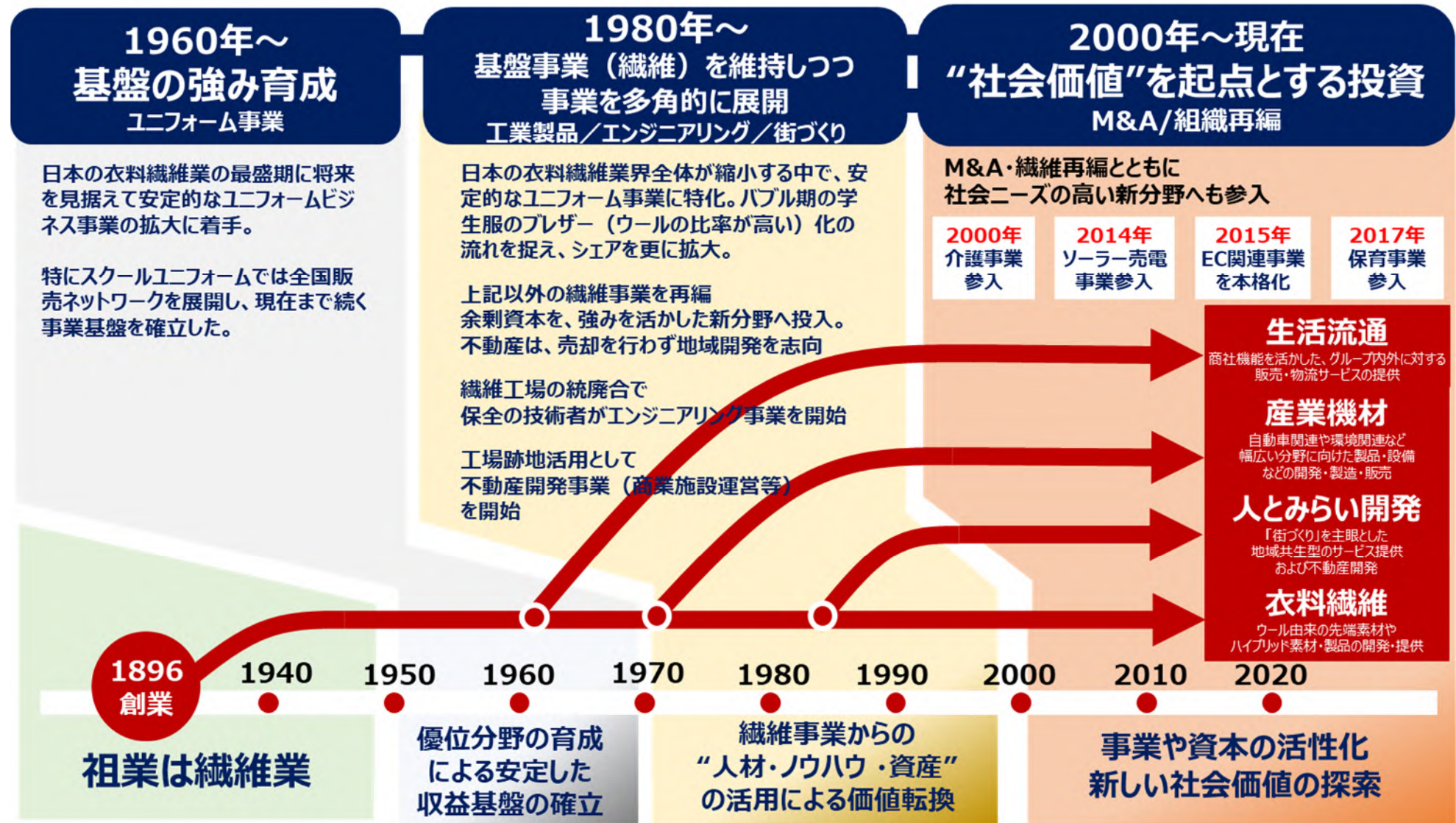
4. 参考資料

4. 参考資料

ニッケグループについて

- ① 事業の変遷（価値転換の歴史）
- ② 事業領域とサービス
- ③ 各事業の特色（衣料繊維・産業機材・人とみらい開発・生活流通）
- ④ 4つの事業体制の強み
- ⑤ セグメント別業績（5年推移）
- ⑥ 資本政策・株主還元方針
- ⑦ キャッシュフロー（第3次中計）
- ⑧ マテリアリティ
- ⑨ 連結会社数の推移
- ⑩ 配当指標
- ⑪ 株価チャート
- ※ 主要な経営指標（10年推移）
- ※ 羊毛原料相場・為替相場の推移

ニッケグループの歩み 価値転換の歴史



ニッケグループの事業領域とサービス



売上構成	事業領域	セグメント内 売上構成	主な取り扱い商品・サービス
 衣料繊維 事業 24%	■ ユニフォーム ■ テキスタイル ■ その他	78% 21% 1%	<u>学校制服用素材／一般企業制服用素材／官公庁制服用素材</u> <u>一般衣料用素材／ニット製品／売糸・編地</u> <u>その他</u>
 産業機材 事業 34%	■ モビリティ関連 ■ 環境関連 ■ その他産業関連 ■ 生活関連	53% 14% 20% 13%	<u>FA（車載電装品等）／車両向け資材／鉄道用制御装置</u> <u>フィルター関連資材</u> <u>OA・家電向け資材／半導体関連製品</u> <u>ラケットスポーツ関連／フィッシング関連／楽器用資材／衛生材料</u>
 人とみらい 開発事業 22%	■ 商業施設運営 ■ 不動産開発 ■ ライフサポート ■ 通信・新規サービス	21% 37% 31% 11%	<u>商業施設運営</u> <u>不動産賃貸／ソーラー売電事業／ 建設事業</u> <u>保育・学童保育／ 介護／ スポーツ関連</u> <u>通信関連</u>
 生活流通 事業 20%	■ 寝装品・業務用品 ■ 生活雑貨 ■ ホビー・クラフト ■ その他	14% 56% 16% 14%	<u>寝装品／航空機内膝掛毛布／災害備蓄用毛布</u> <u>生活家電・雑貨／100円ショップ向け雑貨／家具／フィルム</u> <u>スタンプ用インク・スタンプ／乗馬用品／手編毛糸</u> <u>コンテナ販売／保険代理店</u>

※売上構成・セグメント内売上構成は2026年11月期第2四半期 実績ベース

※売上構成は全社売上高からその他・調整部門売上高2,323百万円を除いた売上高をベースに算出

衣料繊維事業の特色

ニッケグループ

中学校・高校の学生服生地シェアNO.1。生産性向上へのたゆまぬ取り組みにより高い収益性を実現

スクールユニフォームの生地販売が主力

衣料繊維事業の**約50%**はスクールユニフォーム関連の売上



スクールユニフォーム
関連売上



ブレザー型の学生服

事業の優位性

- ✓ 高い製造力
- ✓ グループ内でサプライチェーンが完結する一貫供給体制

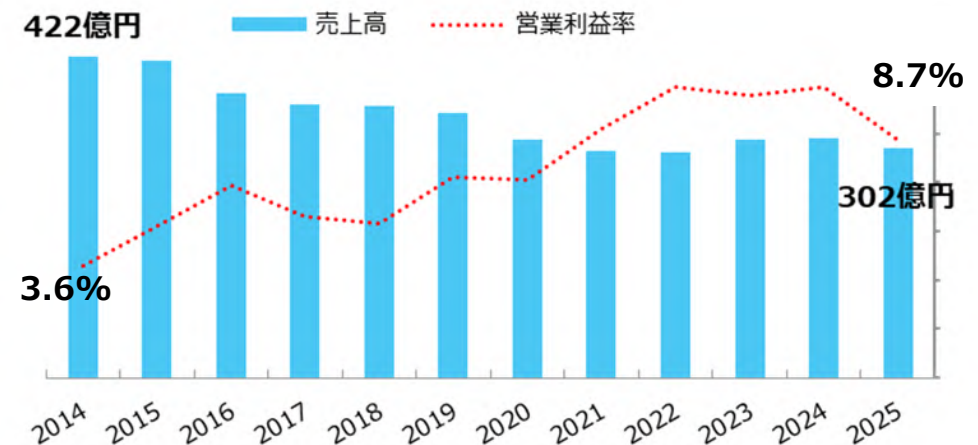
スクールユニフォームは入学式に必ず間に合わせる必要があります、また1年から3年生まで制服の色味を揃えなければなりません。天然素材のウールを原料に使用する事の多いブレザー型の学生服の製造には特に高い技術が求められます。

中学校・高校の学生服生地
約50～60%のシェア※

継続的に収益性を改善

- ・汎用品（テキスタイル・糸）販売の縮小
- ・製造、販売体制の見直し（生産集約・販売統合）
- ・省エネ、省人、自動化による製造合理化

衣料繊維事業の業績推移



※ 当社調べの推定値（ブレザー型の学生服で特にシェアが高い）

産業機材事業の特色

ニッケグループ

不織布・フェルト、FA（ファクトリーオートメーション）等の独自技術で事業拡大

不織布・フェルト製品：自動車・環境・OA機器向け等の工業用資材が主力

市場シェア
国内2位 ※

自動車関連



環境関連



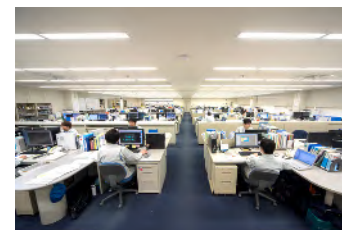
ゴミ集塵機用のフィルターバグ

OA機器関連



プリンター・複写機のトナーシール
インクジェット廃インク吸収体

FA事業：FA設備の製造・販売



設計技術者100名以上（ニッケ機械）



鉄道関連の制御機器等の設計・製造・試験

生活関連：ラケットスポーツ・釣り糸等



バドミントンラケット



釣り糸

※ニードルパンチ式、ケミカルボンド式製法による不織布・フェルト市場のシェア（当社調べ）

人とみらい開発事業の特色

ニッケグループ

ニッケグループの成長を支える安定した利益とキャッシュフローの源泉

人とみらい開発事業の営業利益の**約80%**は商業施設の**テナント収入**とオフィスビル等の**不動産賃貸収入**

商業施設運営：ニッケコルトンプラザ、ニッケパークタウンの2施設を自社運営



ニッケコルトンプラザ

所在地：千葉縣市川市鬼高1-1-1
設 立：1988年11月25日
敷地面積：約43,000坪
店舗面積：71,000㎡



ニッケパークタウン

所在地：兵庫県加古川市加古川町寺家町173-1
設 立：1984年2月8日
敷地面積：約22,100坪
店舗面積：42,000㎡



不動産開発関連：不動産賃貸、建設事業 等

保有不動産（事例）



八重洲通フィルテラス



ニッケ神戸本店ビル



賃貸住宅（夙川）

保有不動産の再開発で収益性をさらに向上

ライフサポート関連：介護・保育・スポーツ事業



商業施設周辺で、介護・保育・スポーツ等、地域密着型サービスを複合的に展開

生活流通事業の特色

ニッケグループ

特徴ある生活関連商品を扱う企業をM&Aでグループ化し拡大

寝装品・業務用品：寝装品・業務用品・災害用毛布 等



寝装品



ニッケ商事株式会社



災害備蓄用/難燃性毛布

ホビークラフト：スタンプ・スタンプ用インク、乗馬用品 等



スタンプ・スタンプ用インク



乗馬用品



生活家電・雑貨：生活家電・雑貨、家具・寝具 等



ネッククーラー



寝具（ベッド）



キッチン用品



生活家電



家具



4つの事業体制の強み

ニッケグループ



事業ポートフォリオ戦略

衣料繊維のユニフォーム事業と人とみらい開発の不動産開発・商業施設運営事業の**安定した収益基盤**から生み出すキャッシュフローを活用し、機敏に商機を捉える事ができる産業機材事業、生活流通事業等に**成長投資（M&A等）**を行う。

安定収益基盤

第1の事業の柱

- **ユニフォーム事業**：中学校・高校の学生服生地では約50～60%のシェアがあり、衣料繊維事業の営業利益の約7～8割を占めている。

第2の事業の柱

- **商業施設運営・不動産開発事業**：賃貸収入（商業施設運営でのテナントからの賃貸収入、オフィスビル・土地等の不動産賃貸収入）が人とみらい開発事業の営業利益の約7～8割を占めている。

セグメント別業績（5年推移）



(単位：百万円)		2021/11月期	2022/11月期	2023/11月期	2024/11月期	2025/11月期
衣料繊維	売上高	29,872	29,735	31,359	31,557	30,282
	営業利益	2,749	3,234	3,323	3,455	2,645
	営業利益率	9.2%	10.9%	10.6%	10.9%	8.7%
	ROIC	6.1%	7.0%	6.8%	6.5%	4.5%
産業機材	売上高	20,390	23,853	24,713	30,836	35,177
	営業利益	1,235	1,952	1,586	1,972	2,875
	営業利益率	6.1%	8.2%	6.4%	6.4%	8.2%
	ROIC	3.6%	5.8%	4.5%	4.9%	6.2%
人とみらい 開発	売上高	34,059	34,938	32,870	26,488	26,679
	営業利益	6,115	6,151	7,086	6,977	6,772
	営業利益率	18.0%	17.6%	21.6%	26.3%	25.4%
	ROIC	16.1%	16.6%	22.8%	20.1%	18.7%
生活流通	売上高	18,685	16,802	20,799	22,527	23,199
	営業利益	1,410	953	555	847	1,051
	営業利益率	7.6%	5.7%	2.7%	3.8%	4.5%
	ROIC	10.1%	5.5%	2.9%	4.6%	6.3%
その他 調整	売上高	3,612	3,720	3,755	4,028	4,038
	営業利益	-1,610	-1,584	-1,536	-1,611	-1,432
合計	売上高	106,619	109,048	113,497	115,438	119,377
	営業利益	9,900	10,707	11,016	11,640	11,913
	営業利益率	9.3%	9.8%	9.7%	10.1%	10.0%
	ROIC	6.1%	5.5%	5.9%	6.7%	5.6%

資本政策・株主還元方針



考え方

- ✓ 成長投資と安定的な株主還元のバランスを志向する。
- ✓ 成長投資については、研究開発投資、**M & A 投資**、**設備投資**、**人財投資**など、中長期的な企業価値の向上の観点から積極的に実行する。

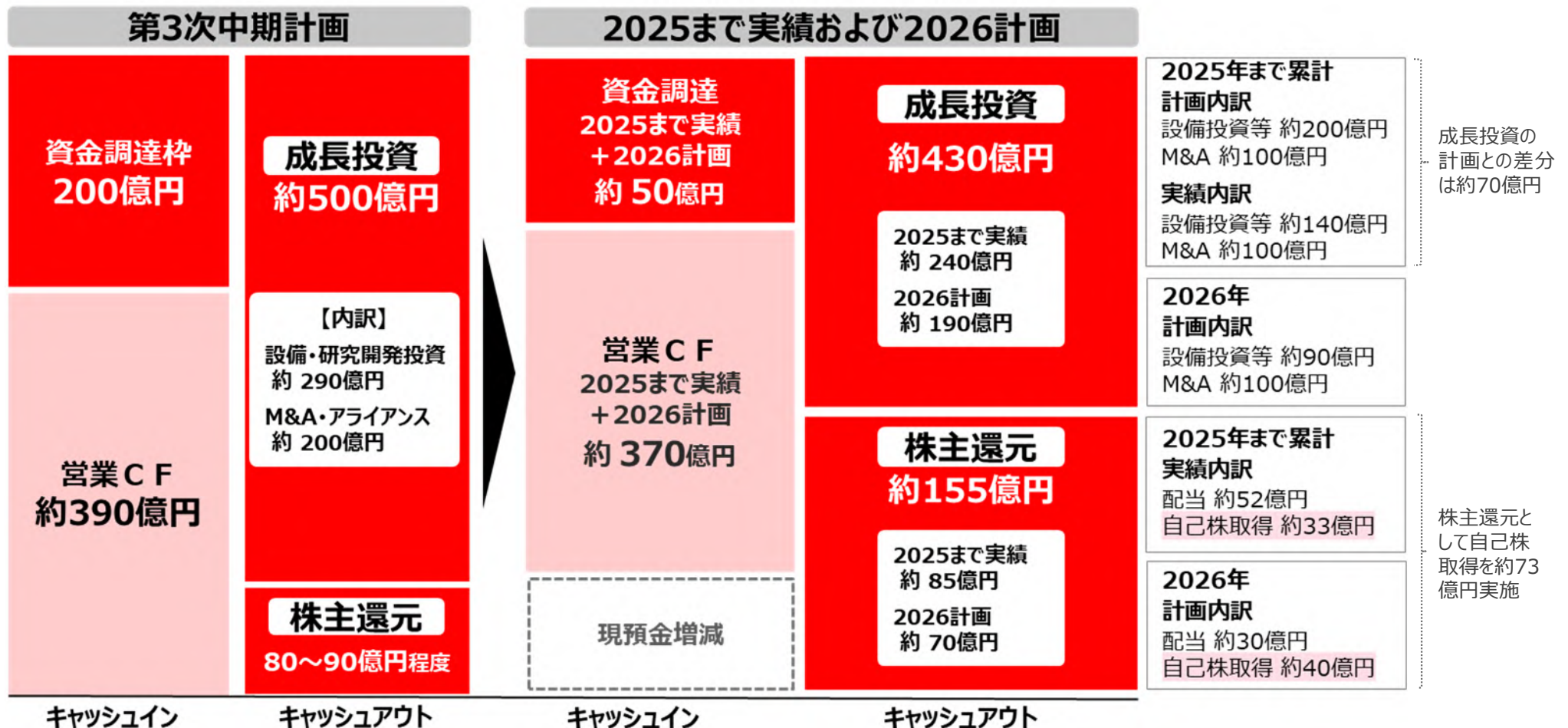
株主還元 方針

- ✓ **減配しない「累進配当」**を基本とする。
- ✓ 配当性向については、現行の 30%目安から順次切り上げ、**第 3 次中計最終年度での35%**を目指す。
- ✓ **DOE**（株主資本配当率）を指標とし、**第 3 次中計最終年度での 2.5%**を目標とする。
- ✓ 投資の進捗も鑑みて機動的な自己株式取得を行い、総合的な株主還元を充実させる。

キャッシュ・アロケーション（第3次中計期間）



第3次中計の成長投資計画約500億円に対し、現時点では約430億円に留まる見通し
差分の70億円については、中計の方針通り「投資の進捗を踏まえた機動的な自己株取得」
（約73億円）により株主還元を強化



※ 設備投資・M&A計画数値は状況に応じて変動する可能性があります。



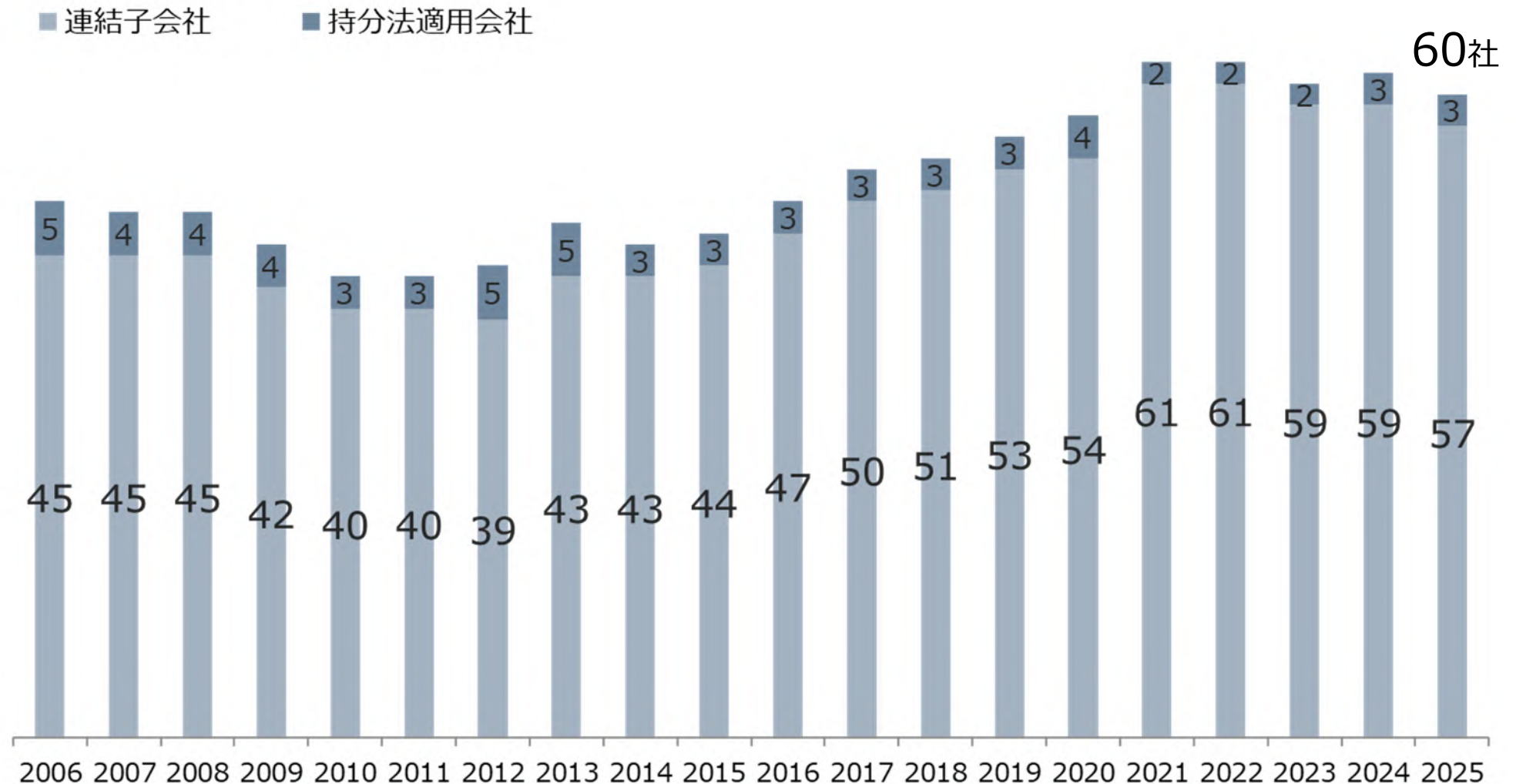
ニッケグループのマテリアリティ



ニッケグループでは4つのマテリアリティを特定し、各々の対応方針を定めた上で事業を推進していきます。

社会的な課題やニーズ	マテリアリティ	対応方針	関連するSDGs
● 少子高齢化社会への対応 ● ウェル・ビーイングの実現	健康・快適への取り組み 快適な暮らしのサポート	ショッピングセンターを拠点とした地域密着型の複合的なサービスの展開により、地域の活性化と利便性の高い街づくりに貢献する。 利用者のニーズにあわせた介護、保育関連施設の運営により、仕事と育児・介護の両立を支援するとともに利用者のQOLの向上に貢献する。 繊維の技術を活用し、身体への負担が少ないメディカルデバイスや、再生医療・創薬の研究を支える細胞培養基材を開発し、人々の健康とQOLの向上に貢献する。	 
● 製品の安全性確保 ● 高品質な製品の安定供給	安全・安心への取り組み バリューチェーンのマネジメント	お客様に満足していただける製品を提供するために、品質管理体制の継続的な見直しと強化を図る。 原材料の産地や品質を特定できるしくみを構築することで、お客様へ提供する商品の安全性を確保する。 バリューチェーンの最適化を図ることで、安定的に商品を提供し続ける。	 
● 気候変動への対策 ● エネルギー問題への対応 ● 大量生産・大量消費からの脱却	環境への取り組み 持続可能な地球環境への貢献	環境配慮型商品の研究開発と販売により、環境負荷の低減に貢献する。 製品の再利用や再生材料の使用による循環型社会の推進に貢献する。 太陽光発電を通じ再生可能なクリーンエネルギーを提供する。 地球環境の保全を最重要の経営課題と認識し、環境保全体制の継続的な見直しと強化を図る。 各事業において省エネルギー施策を推進する。	    
● コンプライアンスの遵守 ● 人権の尊重 ● ダイバーシティ＆インクルージョンの推進 ● 健康経営の実践	経営基盤の強化	企業倫理規範の実践を自らの重要な役割と認識して経営にあたり、実効あるガバナンスを構築し、率先垂範してニッケグループ内にその周知徹底と定着化を図る。 国連「ビジネスと人権に関する指導原則」に基づき、国際的に認められた人権規約と労働基準を支持・尊重し、人種、性別、宗教、性自認、障がいの有無等により不当に扱われることのないよう相互の理解と尊重に努め、社会から信頼される企業グループづくりに努める。 広く人材を求め、多様な「知」を結集して事業にイノベーションをもたらす。 活き活きと生命力あふれた企業を目指し、従業員の健康維持・向上に努める（ニッケ健康宣言）。	   

ニッケグループ連結会社数推移

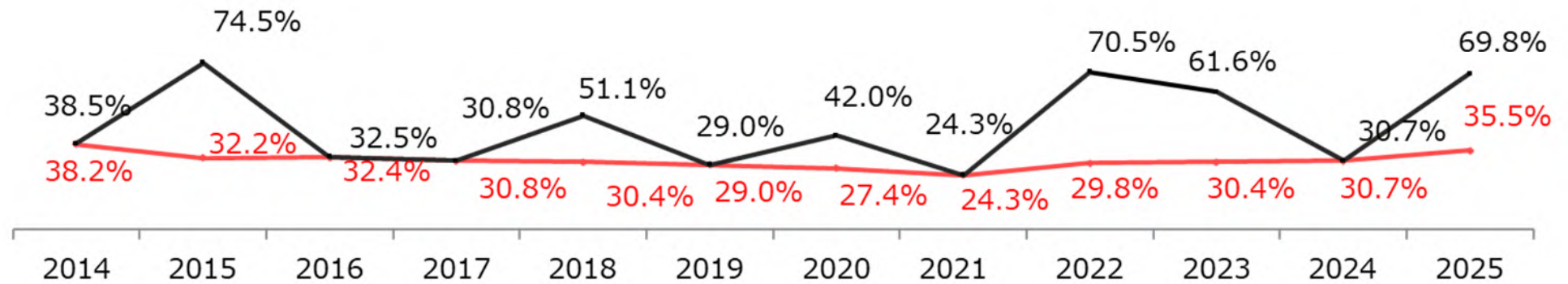


※各年11月末時点でのニッケグループ会社数

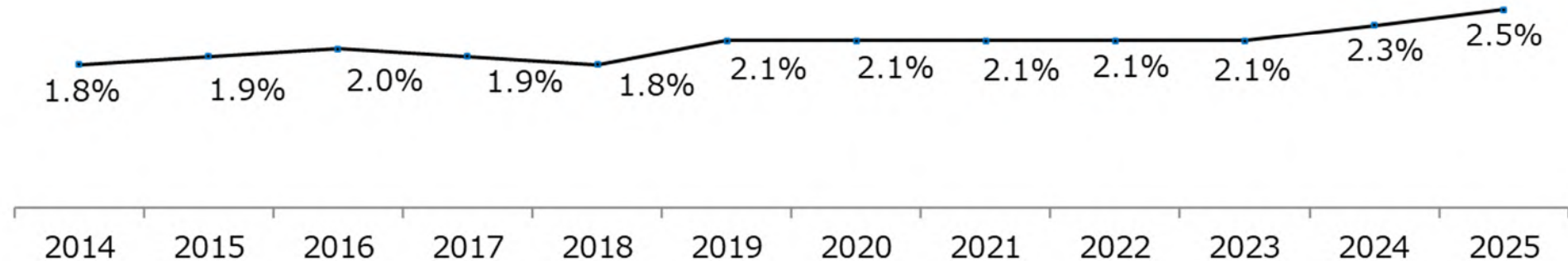
配当指標

ニッケグループ

— 配当性向 — 総還元性向



— 株主資本配当率 (DOE)



株価チャート

期間：2025/6/1～2026/5/31（直近1年）

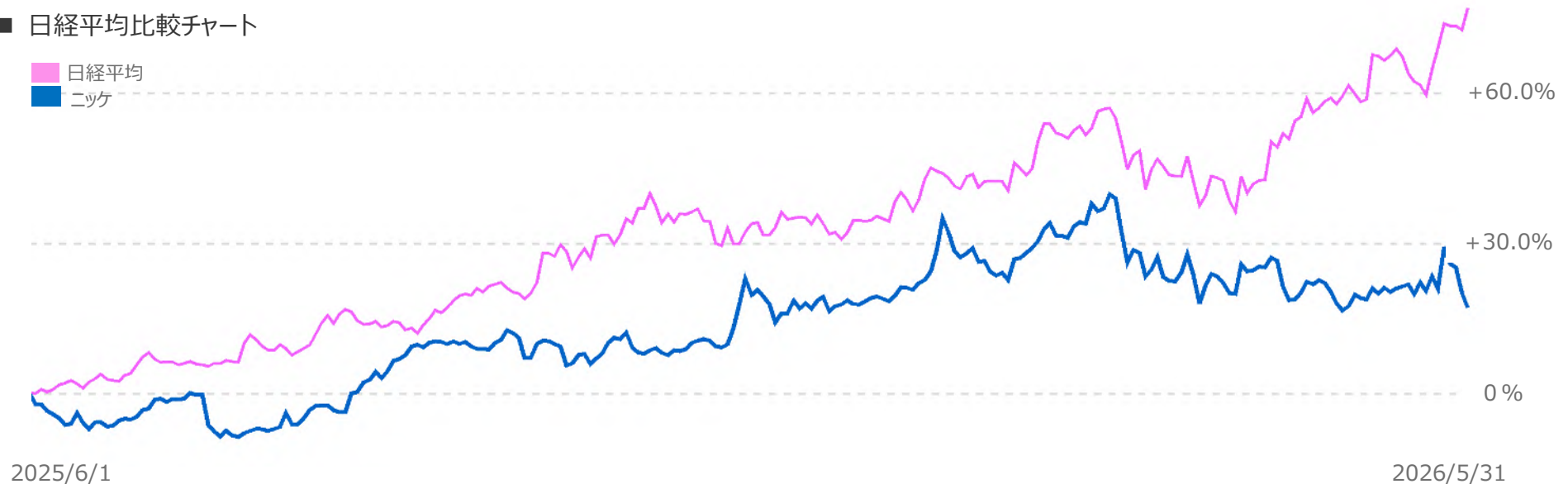
ニッケグループ

■ 当社株価チャート



■ 日経平均比較チャート

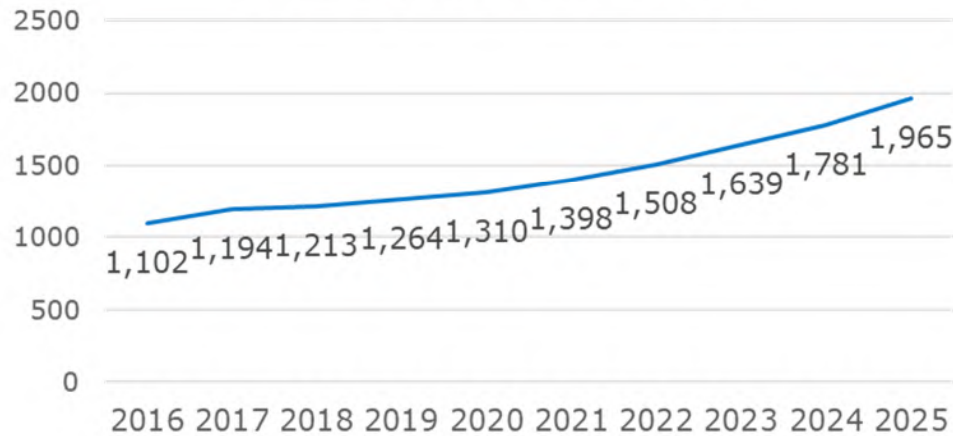
■ 日経平均
■ ニッケ



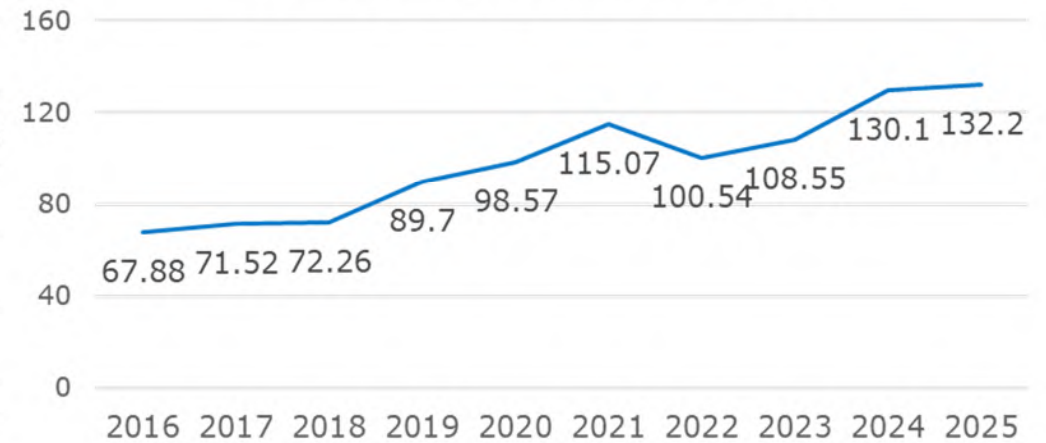
※主要な経営指標①

ニッケグループ

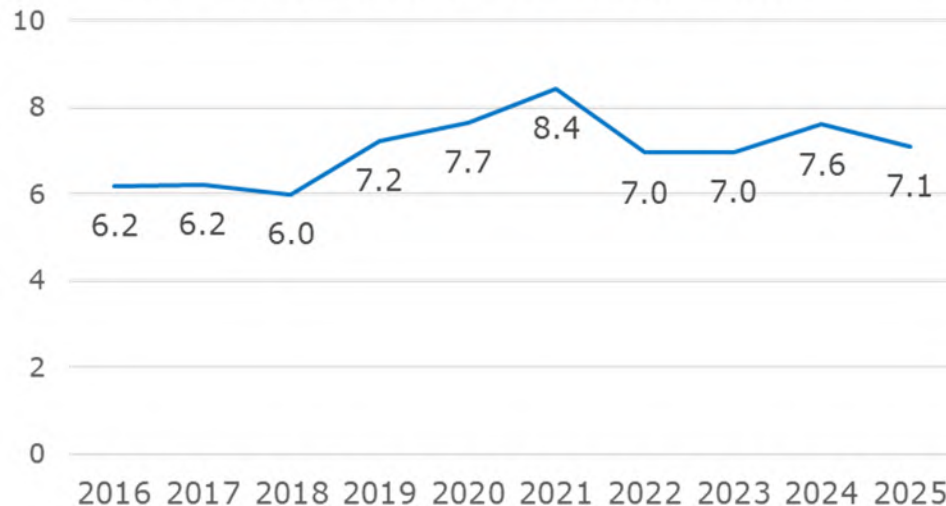
1株当たり純資産：BPS（円）



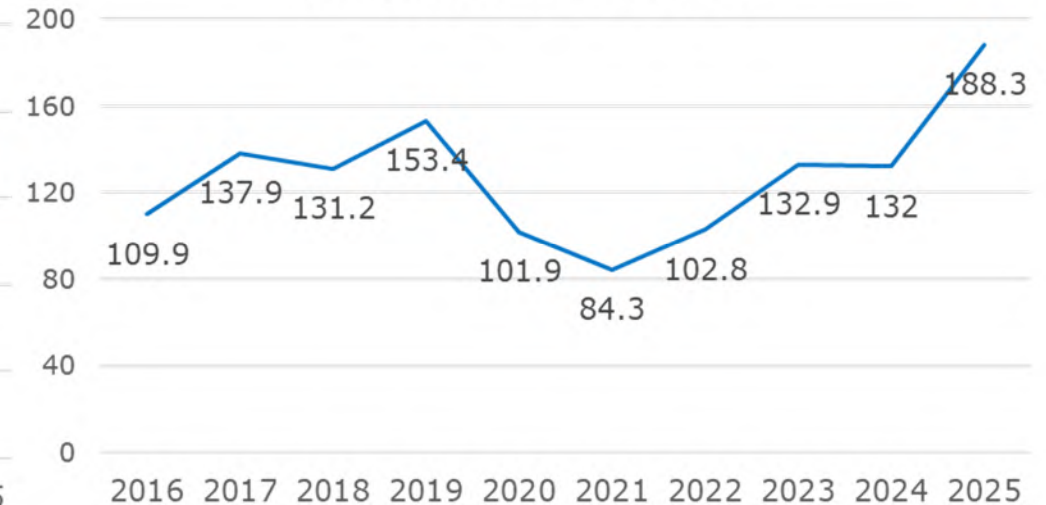
1株当たり当期純利益：EPS（円）



自己資本当期純利益率：ROE（%）



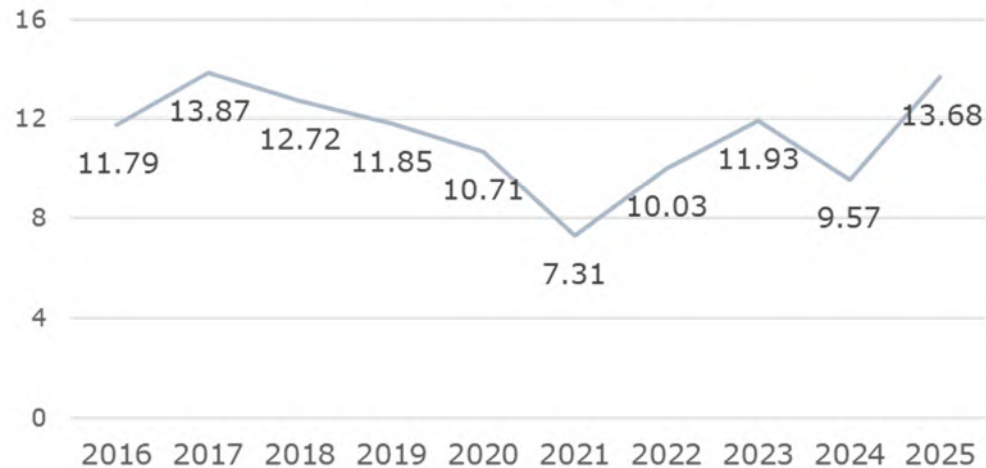
株主総利回り：TSR（%）



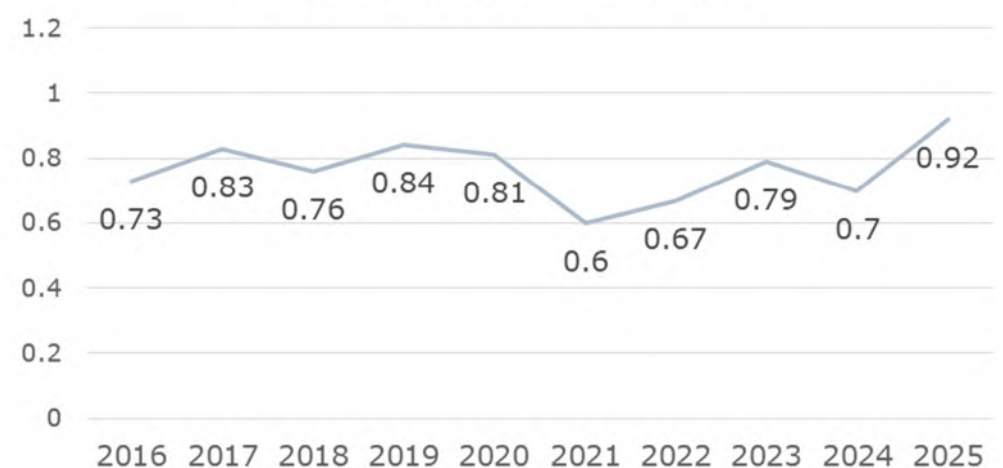
※主要な経営指標②

ニッケグループ

株価収益率：PER（期末）



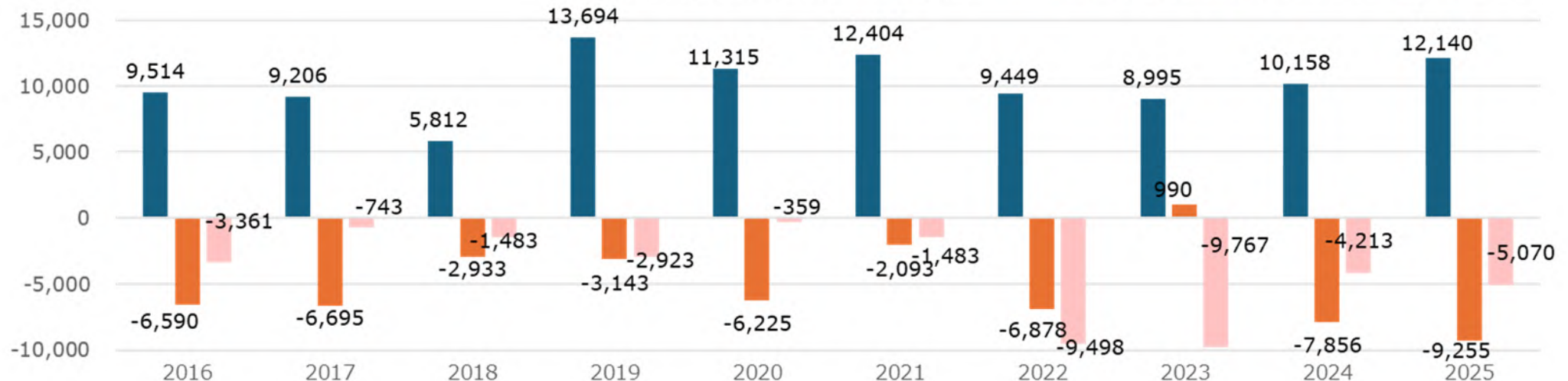
株価純資産倍率：PBR（期末）



(単位：百万円)

連結キャッシュフロー計算書

■ 営業活動によるCF ■ 投資活動によるCF ■ 財務活動によるCF



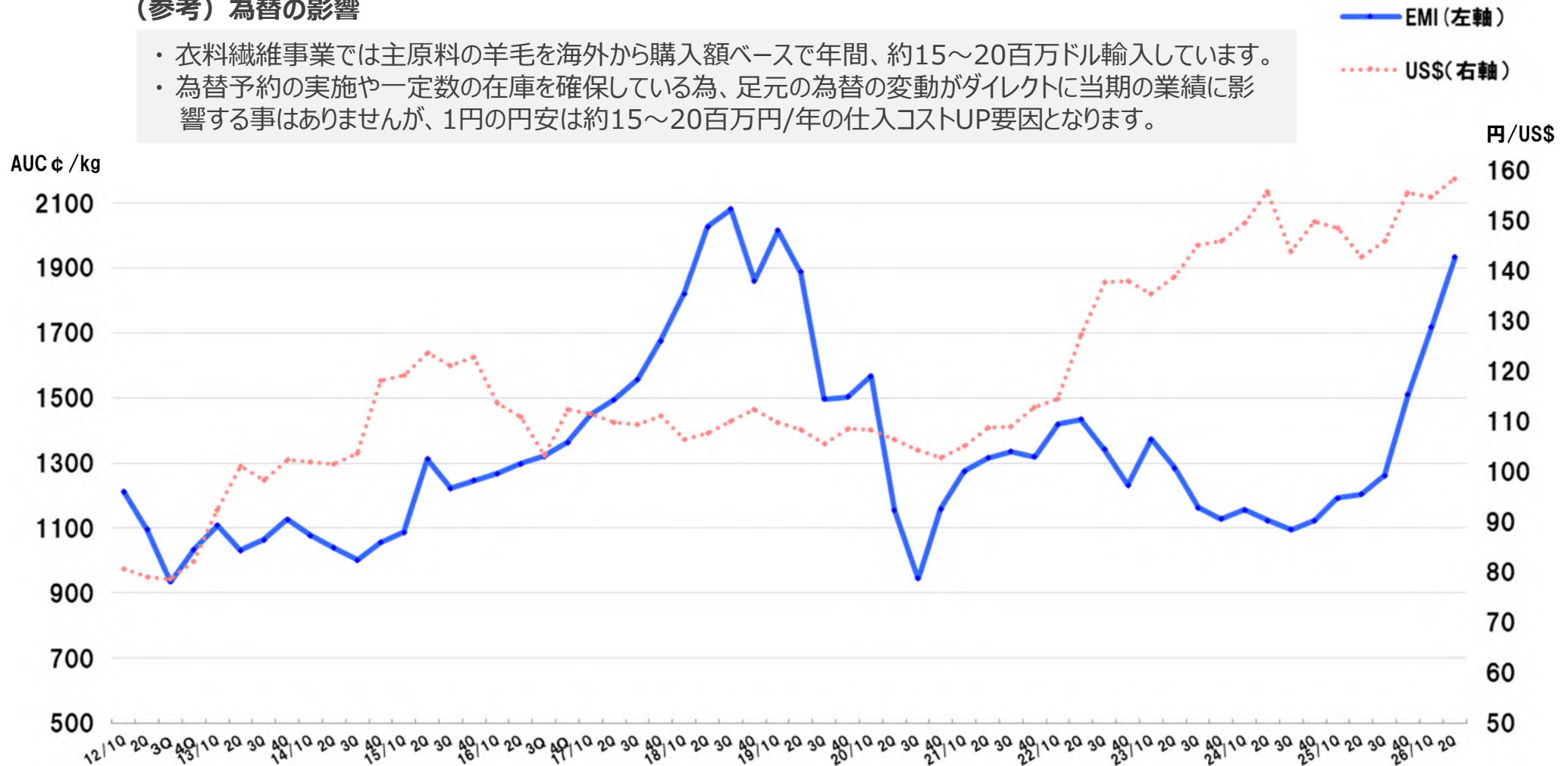
※羊毛原料相場・為替相場の推移

ニッケグループ

EMI（豪州羊毛東部市場価格指標）推移概要

（参考）為替の影響

- ・衣料繊維事業では主原料の羊毛を海外から購入額ベースで年間、約15～20百万ドル輸入しています。
- ・為替予約の実施や一定数の在庫を確保している為、足元の為替の変動がダイレクトに当期の業績に影響する事はありませんが、1円の円安は約15～20百万円/年の仕入コストUP要因となります。





本資料の取り扱いについて

本資料中の業績予想、見通しおよび事業計画に関する記述等は、本資料公表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、記載された将来の業績を保証するものではありません。